

長岡市埋蔵文化財調査報告書

# 浦畠遺跡Ⅲ

—墓園拡張工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2016

新潟県長岡市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は新潟県長岡市来迎寺字蒲畠901番地2ほかで実施した浦畠遺跡第3次発掘調査報告書である。
2. 調査の原因は長岡市越路墓園区画増設工事であり、調査主体は長岡市教育委員会である。
3. 発掘調査に要した経費は原作者である長岡市が負担した。
4. 遺物の註記は以下のとおりである。

遺構覆土出土資料　　遺跡略号（010）+調査年度（15）+遺構番号　一個別番号  
調査区内出土資料　　遺跡略号（010）+調査年度（15）+層名
5. 遺構番号は遺構略号+通し番号とした。そして過去に実施した発掘調査との混同を避けるため、301番へとした。
6. 遺構平面図及び断面図は簡易遺り方実測（1：10）で作成した。
7. 本書の執筆・編集は調査担当が行った。
8. 本文における遺構形態の表記は加藤〔1999〕に準拠した。
9. 本文・図版において、土壤の色調は日本色研事業株式会社発行『新版 標準土色帖』に準拠して記載した。  
また、粘性と繊りについては5段階で表記した。1が最も弱く、5が最も強い。
9. 本報告書の内容は先行する全ての報告・記載に優先する。
10. 調査の体制は以下のとおりである。

調　　査　　主　　体　　長岡市教育委員会（教育長　加藤孝博）  
事　　務　　局　　長岡市教育委員会科学博物館（館長　小熊博史）  
調　　査　　担　　当　　長岡市教育委員会科学博物館　主査　新田康則  
調　　査　　補　　助　　石坂圭介（株式会社シン技術コンサル）  
土木作業管理者　　杉本和夫（株式会社シン技術コンサル）  
發　　掘　　作　　業　　青柳政則・内山良子・加藤一善・郷　武治・小林　茂・小林春治・佐藤尚雄・  
　　　　　　　　　　田中康夫・濁川俊明・深井恒博・渡辺雪子  
整　　理　　作　　業　　小川真紀・渡辺雪子

11. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々より多大なる御教示・御協力を賜った。記して厚く御礼申し上げる。（五十音順・敬称略）

安藤正美・田中洋史・三ツ井朋子・有限会社越路地計・株式会社信濃技術・株式会社長潤・  
永井工業株式会社・社団法人長岡シルバー人材センター越路支部・新潟県教育庁文化行政課・  
公益財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・長岡市立中央図書館文書資料室

## 目 次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境	2
1 遺跡の位置	
2 周辺の遺跡	
第Ⅲ章 調査の方法と経過	4
第Ⅳ章 調査の成果	6
1 調査の概要	
2 調査区の堆積状況	
3 遺構と遺物	
第Ⅴ章 まとめ	20

### 参考文献

## 挿図・表目次

第1図 調査区位置図 (1:4,000)	1	第1表 全体工程表	4
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第2表 遺構観察表	14
第3図 調査区配置図	5	第3表 陶磁器観察表	19
第4図 中世期の遺構分布	21	第4表 石器観察表	19
		第5表 金属製品観察表	19

## 図版目次

図版 1	遺構全体図①	図版 9	個別遺構図⑦	写真図版 1	調査写真①
図版 2	遺構全体図②	図版 10	個別遺構図⑧	写真図版 2	調査写真②
図版 3	個別遺構図①	図版 11	遺物実測図	写真図版 3	調査写真③
図版 4	個別遺構図②			写真図版 4	調査写真④
図版 5	個別遺構図③			写真図版 5	調査写真⑤
図版 6	個別遺構図④			写真図版 6	調査写真⑥
図版 7	個別遺構図⑤			写真図版 7	調査写真⑦
図版 8	個別遺構図⑥			写真図版 8	遺物写真



# 第Ⅰ章 調査に至る経緯

平成 26 年 10 月、長岡市越路支所市民生活課（以下、支所市民生活課）から長岡市教育委員会科学博物館（以下、科学博物館）に対し、長岡市来迎寺地内、浦畠遺跡における長岡市越路墓園拡張工事に係る埋蔵文化財の取扱いについて協議の申し入れがあった。

工事は、既存の墓地区画と同様、遺跡保護のため現況盛土で造成するが、用地東端に土留用の擁壁を設置するため、この部分に掘削が伴うというものであった。これに対し科学博物館は、平成 15 年に越路町教育委員会が実施した試掘調査の結果と照らして、本発掘調査の要否を判断することとした。

試掘調査は、浦畠地区における道路改良及び緑地整備に伴うもので、その結果、平成 19 年に 4,100m<sup>2</sup> を対象とした本発掘調査（以下、第 1 次調査）を実施した。掘立柱建物跡・土坑・溝状構造・井戸状構造等と共に、珠洲焼・和鏡・刀子などの遺物が出土し、13 世紀から 15 世紀に営まれた在地勢力の葬送の場、あるいは墓域の存在を確認した〔長岡市教委 2008〕。その後、平成 22 年には、長岡市越路墓園建設工事に伴い、第 1 次調査 A 地区に接する 54.6m<sup>2</sup> を対象とした本発掘調査（以下、第 2 次調査）を実施した。ここでは第 1 次調査で検出した掘立柱建物や土坑と連続する遺構群を確認している〔長岡市教委 2011〕。

今回の事業地は、平成 15 年実施の試掘調査のうち、10・11 T における遺構・遺物検出状況が参照される。10・11 T では、掘立柱建物を構成すると推測される柱穴・土坑・溝などの遺構プランを検出し、加えて 11 T では、柱穴プランに伴って、縄文土器片と珠洲焼片が出土している〔長岡市教委 2008〕。墓地区画を現況盛土で造成して遺跡を保護するには土留用の擁壁設置は不可欠であり、工法上、この部分の地山の掘削が避けられないので、本発掘調査を実施し、記録として遺跡を保存する方針を固めた。

一方、墓地区画拡張工事とは計画別に、駐車場整備計画が具体化したため、10 月 29 日に遺跡範囲確認調査を実施した（34・35 T）。ここでは掘立柱建物跡を構成すると推測される柱穴・土坑・溝のプランが比較的密に分布する状況を確認した〔長岡市教委 2015〕。遺物包含層がほぼ消滅しており、帰属時期の特定には至らなかったが、第 1 次調査 C 地区東端（E～G-12～13 グリッド：第 3 図参照）で確認した中世の遺構群と一連をなすものと推測された。そして、この範囲が中世期における遺構分布の中心であり、今回の本発掘調査（以下、第 3 次調査）対象範囲は、その縁辺部に該当して遺構密度も低い、という遺跡全像によって調査計画を立て、本発掘調査の準備を進めた。

平成 27 年度予算の成立を受けて、支所市民生活課から平成 27 年 4 月 1 日付け越市第 10 号 2 で発掘調査の依頼があり、統いて 4 月 8 日付け越市第 11 号で法第 94 条第 1 項の規定による埋蔵文化財発掘の通知があった。長岡市教育委員会は 4 月 22 日付け長教博第 46 号による意見を添えて、新潟県教育委員会教育長に送付した。これに対し 5 月 18 日付け教文第 146 号により、長岡市に対して工事着手前に本発掘調査を実施するよう通知があった。5 月 25 日付け長教博第 75 号で新潟県教育委員会教育長に対して法第 99 条第 1 項の規定による発掘調査着手を報告し、本発掘調査を開始した。



第 1 図 調査区位置図 (1:4,000)

## 第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

### 1 遺跡の位置（第2図）

浦畠遺跡は新潟県長岡市来迎寺地内に所在する。大字来迎寺を含む旧三島郡越路町（現在の長岡市越路地域）は、新潟平野の南端部に位置しているが、越路原という大きな地理的障壁によって、信濃川流域とその支流波海川流域、二つの地域へと隔てられている。

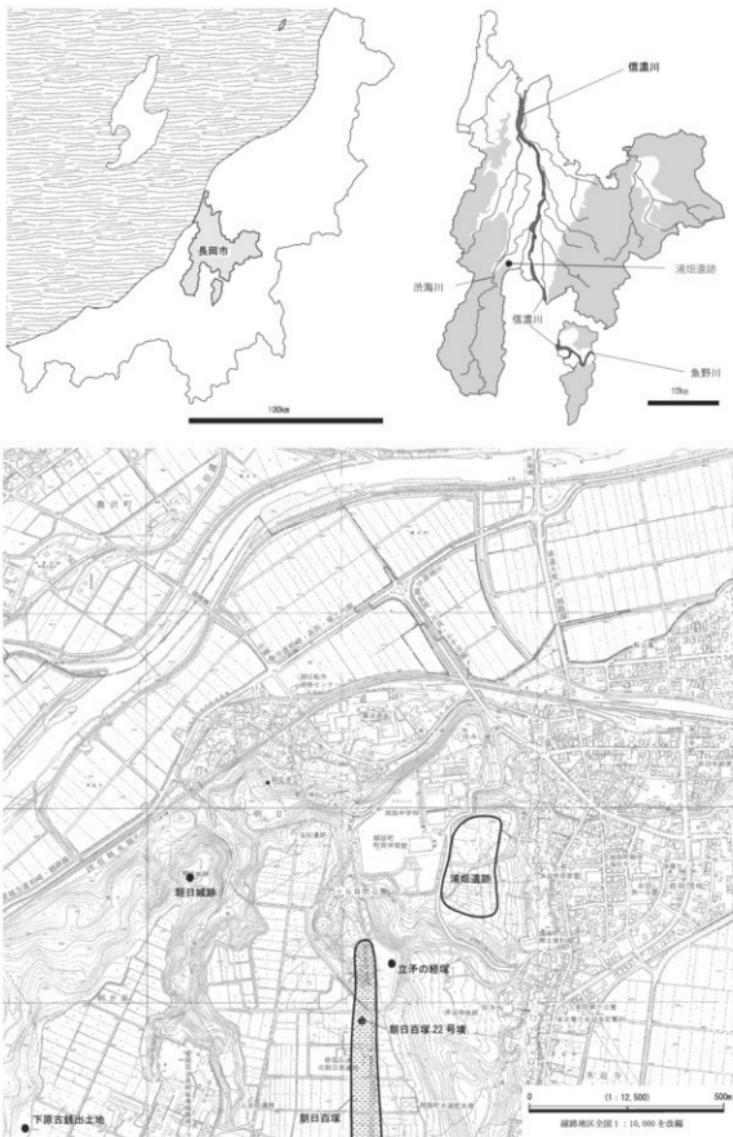
越路原は、信濃川左岸に形成された6面の河岸段丘のうち、越路原Ⅰ面・越路原Ⅱ面・越路原Ⅲ面を総称する呼称である。越路原Ⅱ面については、渡辺秀男が信濃川ローム層中の広域テフラを基準とした段丘対比を進め、隣接する小栗田原面などと同一段丘面であるとして、あらたに「片貝面」という名称を提唱している。加えて形成年代についても、越路原Ⅰ面は13～15万年、越路原Ⅱ面＝「片貝面」は10万年前頃、越路原Ⅲ面を5.5万年前頃としている〔渡辺 2007〕。段丘形成時には信濃川に向かって緩やかに傾斜する地形面であったと推測されているが〔柳 1998〕、ここを走る片貝－真人背斜（隆起）と小千谷背斜（沈降）は、10万年間の変動量が80mに達する国内屈指の褶曲運動をみせており、その結果、舌状に独立した台地として新潟平野に迫り出す形となっている。

遺跡は越路原Ⅲ面の北東端に立地し、標高は第3次調査区付近で約54m。信濃川の比高差は約28mである。周辺は東に向かって緩やかに下る傾斜地となっており、長らく畠地として利用されていたが、平成19年の第1次調査を経て市道越路445号線と公園が整備され、平成22年には第2次調査を経て墓園が建設されるなど、景観の変化が著しい。

### 2 周辺の遺跡（第2図）

浦畠遺跡周辺には、幾つかの中世遺跡の所在が知られている。越路原Ⅰ面の西縁に所在する下原古戻出土からは珠洲焼の壺に収納された1,311枚の備蓄錢が出土している。出土銭や珠洲焼の年代から14世紀半ば以降から15世紀前半に埋納されたものと考えられている〔遠藤 1998〕。越路原Ⅰ面北西端には朝日城跡が立地する。江戸時代後期に編まれた『北越城主抜書』（元明2年頃）や『越後野志』（文化12年）は七寸五分氏を城主と伝えており、簡略的な縄張りをもつ中世の在地領主の館城と推測されている〔鳴海 1998〕。しかし、平成16・17年に実施し試掘・確認調査でも郭の造作は確認できず、不明な点が多い。

朝日百塚は、中世に構築されたと考えられる塚群であり、『越後名寄』（宝暦6）を始めとする地誌類に記載されるほか、草間文續の文政元年『越後輿地図』にも「長者ヶ原塚多有一百塚原トモ云」との記事が見える。昭和23年の「朝日百塚測図」には148基の所在が記録されており、南北方向約1キロメートルにわたり直線的に並ぶ小形の塚群とその東に点在する大形の塚群とがあったが、昭和42年の越路原综合整治開発事業により大部分が失われている。9基について発掘調査が行われ、唯一22号塚から13世紀後半～14世紀代に比定される珠洲焼の壺が出土している〔遠藤 1998〕。また、現存する16基のうちの1基は、朝日百塚とは別に、立矛の経塚として周知化されている。ここから出土したという来迎弥陀三尊団・紺紙金泥経・蓬莱鏡が紫雲山安浄寺に伝わっており、最も新しい蓬萊鏡の年代から、塚の構築年代は江戸時代前期と推定されている〔遠藤 1998〕。文政2年12月に朝日村の組親与次右衛門へと提出された文書（長岡市立中央図書館文書資料室所蔵三島郡朝日村松井家文書）によれば、「百塚辻」から経文を拾得した者がいるという風聞について五人組を通した尋問が行われており〔田中 2009〕、安浄寺資料との関係に興味が持たれる。



第2図 遺路の位置と周辺の遺跡

## 第Ⅲ章 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

第1次・第2次調査で使用した調査グリッドを復元して調査に臨んだ。つまり、北西端を原点とした10mメッシュを設定し、原点から南へがアラビア数字の1～21、同様に、東へはアルファベットのA～Kを振り当てた（第3図）。

表土層は0.25m級バックホウによるすき剥ぎで掘削し、それより下位の土層及び遺構覆土はジョレンや移植ゴテ、ネジリガマなどを用いた人力掘削で調査を進めた。

検出した遺物は、光波測量で出土位置を記録した。ただし、表土層出土の遺物は、調査区もしくは大グリッド一括で取り上げた。

遺構全体平面図は、調査の最終工程で実施した航空写真測量（1:40）を基に、一部を光波測量で補足して作成した。また、切り合いなどの関係で航空写真測量前に失われる遺構の平面図は簡易やり方実測（1:10）で記録した。また、遺構断面図も簡易やり方実測（1:10）で記録した。

調査写真にはキヤノン EOS - Kiss X 2（レンズ18-55mm）とキヤノン EOS - Kiss III（レンズ28-80mm）を併用し、それぞれJPEG形式と35mm白黒フィルムで記録した。

### 2 調査の経過

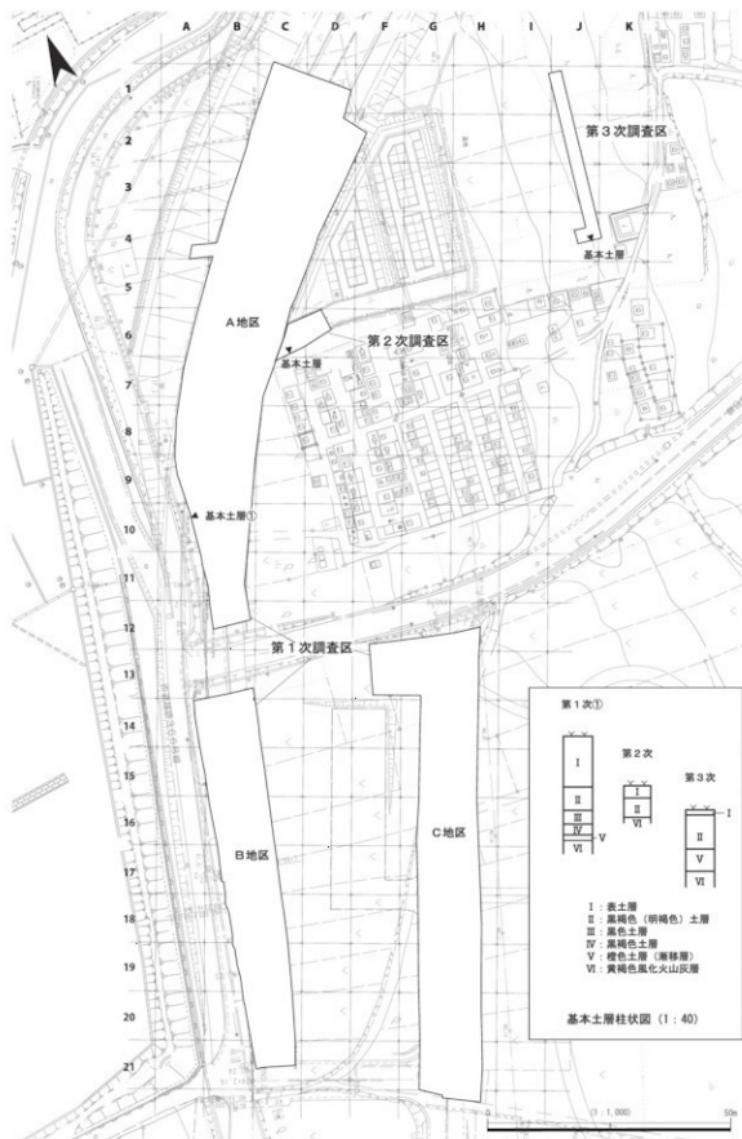
**発掘調査の経過** 平成27年6月1日、バックホウによるすき剥ぎにて表土（1層）を除去した。その後、グリッド杭を打設した。翌2日、作業員を加えた作業を開始。黄褐色風化火山灰土層（VI層）上面で調査区全体の遺構確認を行い、100基を超える遺構を確認した。3日より遺構調査を開始し、11日に完掘。調査区全体の精查を行って、航空写真測量を実施した。12日、図面記録及び写真測量の補足作業を行い、調査を完了した。調査区の埋め戻しは行わず、標識ロープで養生した上で、現場の引き渡しを行った。

**整理作業の経過** 整理作業は6月16日より実施した。出土遺物は、水洗い、註記した後、分類・抽出し、図化・写真撮影を行った（11月4日終了）。遺構はまず全体図（1:40）を作成し（8月10日完成）、これを基に個別図を作図した（11月11日終了）。原稿の執筆は9月20日より断続的に行い、編集作業は11月12日より開始した。明けて平成28年1月21日に全ての原稿を整え、印刷所に入稿した。

出土遺物・記録写真・記録図などは全て長岡市教育委員会埋蔵文化財整理作業所に保管している。

第1表 全体工程表

	平成26年度	平成27年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事前協議													
調査準備													
発掘調査													
基礎整理													
分類・観察													
遺物図化													
執筆・編集													
校正・印刷													



第3図 調査区配図

## 第IV章 調査の成果

### 1 調査の概要

今回の第3次調査によって遺構121基と遺物31点を検出した。検出遺構は土坑11基・ビット90基・溝状遺構20条に分類される。いずれも調査区南側でやや密集して発見され、北側で若干疎となる。特に、方形の土坑（SK312・SK317・SK345・SK395等）はこの傾向が顕著である。また、ビットの多くは柱穴と思われるが、調査区の制約もあり、建物跡の復元には至らなかった。

出土遺物は陶磁器13点・繩文土器3点・石器14点・金属製品1点である。出土陶磁器は、珠洲焼12点・青磁1点に分類される。一方、石器は、磨石類8点・台石3点・砥石1点・剥片2点である。出土遺物のうち、表土出土2点（台石と磨石）と13グリッド出土3点（繩文土器碎片）を除いた26点は、遺構覆土中から出土している。

### 2 調査区の堆積状況（第3図）

試掘・確認調査を含む過去の発掘調査のうち、最も良好な堆積状況を示しているのは、第1次発掘調査の基本層序①〔長岡市教委 2008〕である。この地点ではⅠ層=表土層（耕土層）、Ⅱ～Ⅳ層=黒ボク土層、V層=漸移層、VI層=黄褐色風化火山灰土層という層序を把握できた。しかし、遺跡範囲の大部分において、近年まで行われていた畑作の影響等により、黒ボク土層が失われている。

今回の調査区で最も良好な堆積状況を示していたのは、調査区南壁であった。ここでは表土層=Ⅰ層、灰黄褐色土層、黄橙色土層、黄褐色風化火山灰土層=VI層の堆積を確認した。灰黄褐色土層は、第1次調査Ⅱ層や第2次調査Ⅱ層に類似することから、これをⅡ層と認定し、黄橙色土層は、同様にV層=漸移層とした。しかし、調査区の大部分においてⅡ層・V層は認められず、Ⅰ層直下にVI層が露出する状況であった。このためVI層上面を遺構確認面とした。

### 3 遺構と遺物（第2～5表 図版3～11）

#### （1）土坑（図版3～5・11 写真図版4～8）

SK301（図版3・11）調査区南端J4グリッドに所在する。平面形は概ね方形を呈するものと思われるが、西側と南側が調査区外へと続いている。全体の規模・形状は不明である。断面形は台形状を呈し、底面は平坦である。確認された範囲では、南北233cm、東西223cm、確認面から底面までの深さは63cmである。今回の調査においては突出した規模をもつ大型土坑である。覆土は3枚観察され、いずれも自然堆積したものと推測される。SK302に切られ、SK399を切る。

本遺構からは珠洲焼6点と金属製品1点が出土した。4は出土位置が不明であるが、他は遺構西側の①層及び②層から出土している。7点全点を図化した。1～6は珠洲焼である。1～4は甕の体部片で、同一個体の可能性がある。平行式打圧痕が見られ、叩き目3cm当たりの打圧密度は8目から9目である。吉岡編年〔1994〕IV期に位置づけられよう。5・6は片口鉢片で、5は底部、6は口縁部資料である。6の口縁部端部がやや外側に突出し、体部はやや膨らむ。吉岡編年IV期と考えられる。7は金属製品であるが器種等不明。長さ3.9cm・幅0.8cm・厚さ0.3cmを測り、平面形態は柳葉形で、端部は丸みを帯びる。中央付近に直径4mm程の孔が2つ穿たれている。

S K 305 (図版3・11) J 4 グリッドに所在する。S K 306 を切る。平面形は楕円形、断面形は弓状を呈する。一部は調査区外となる。確認した範囲での長径は69cm、短径は30cmで、確認面から底面までの深さは18cmである。遺物は出土していない。

S K 306 (図版3・11) J 4 グリッドに所在する。S K 305 に切られる。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈する。北側は調査区外となる。確認した範囲での長径は128cm、短径は49cmで、確認面から底面までの深さは24cmである。

本遺構からは珠洲焼片と台石各1点が底面付近で出土した。珠洲焼片は台石の直下から出土している。珠洲焼片1点を図化した。8は甕の体部資料である。叩き目の打圧密度は3cmあたり8目である。吉岡編年V期と推定される。

S K 312(図版4) J 3・4 グリッドにまたがって所在する。平面形態は方形で、東西辺130cm、南北辺122cm。断面形は概ね箱状で、確認面から底面までの深さは50cmである。土層断面の観察等から、S D 303 と S D 304 に切られていることがわかる。遺物は出土していない。

S K 317 (図版4) J 3 グリッドに所在する。東側の一部が調査区外に続いている。確認した範囲での平面形は長方形で、長辺177cm、短辺133cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは29cmである。S D 320 を切り、S K 404 に切られる。

本遺構からは、珠洲焼片2点、磨石類3点が出土した。珠洲焼2点を図化した。9は甕の体部片で、叩き目の3cmあたりの打圧密度は9目。小破片のため判然としないが、吉岡編年V期と考えられる。10は甕の底部資料で、吉岡編年V期以降の所産と考えられる。

S K 319 (図版5) J 3 グリッドに所在する。西側の一部が調査区外に続いている。S K 370・S K 398・S K 403 に切られる。確認した範囲の平面形は不整形で、南北辺は74cm、東西辺は88cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは10cm。本遺構からは磨石類1点が出土したが、図化はしていない。

S K 330 (図版5) J 3 グリッドに所在する。S K 331・S K 333 を切り、S K 329 に切られる。平面形は隅丸方形を呈し、長辺91cm、短辺は73cm。断面形は弓状を呈し、確認面から底面までの深さは11cmである。遺物は出土しなかった。

S K 345 (図版5) J 2 グリッドに所在する。東側の一部は調査区外に続いている。S K 395 を切る。確認した範囲での平面形は方形で、南北辺は185cm、東西辺は141cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さが31cmである。遺物は出土していない。

S K 355 (図版6) J 2 グリッドに所在する。S K 358 を切り、S K 359 に切られる。平面形は円形で、長径は71cm、短径は63cm。断面形は不整な台形状で、確認面から底面までの深さは13cmである。遺物は出土していない。

S K 369 (図版6) J 2 グリッドに所在する。東側の一部は調査区外に続いている。確認した範囲での平面形は不整形で、長軸78cm、短軸85cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは29cmである。底面は凹凸が著しい。遺物は出土していない。

S K 395 (図版5) J 3 グリッドに所在する。東側の一部は調査区外に続いている。S K 345 に切られる。確認した範囲での平面形は方形で、南北辺130cm、東西辺102cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは19cmである。遺物は出土しなかった。

## (2) ピット(図版3～11)

SK 302(図版3) J 4 グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径10cm、短径72cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは45cmである。覆土のうち③層(明黄褐色粘質土)は、VI層に由来するものであり、SK 301が廃絶・埋没した後、本遺構が構築される際、柱の根固めを目的として埋められたものと推測される。遺物は出土していない。

SK 303(図版3) J 4 グリッドに所在する。南側は調査区外に続いている。平面形は方形を呈すると推測される。確認した範囲での長径は26cm、短径は10cmである。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは28cmである。遺物は出土していない。

SK 304(図版3) J 4 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径29cm、短径28cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは22cmである。遺物は出土していない。

SK 308(図版6) J 4 グリッドに所在する。平面形は方形で、長辺34cm、短辺30cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは56cmである。遺構形状や覆土の堆積状態は、柱穴の典型的な在り方を示している。遺物は出土していない。

SK 309(図版6) J 4 グリッドに所在する。SK 310に切られるが、方形の平面をもつ遺構であったと推測される。長辺27cm、短辺は残存値で20cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは4cmである。遺物は出土していない。

SK 310(図版6) J 4 グリッドに所在する。SK 309を切る。平面形は長方形で、長辺50cm、短辺34cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは66cmである。遺構形状等から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

SK 311(図版6) J 4 グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径34cm、短径29cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは25cmである。遺物は出土していない。

SK 313(図版6) J 3 グリッドに所在する。SK 314を切る。平面形は楕円形で、長径47cm、短径38cmである。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは43cmである。遺構形状や覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

SK 314(図版6) J 3 グリッドに所在する。SK 313に切られているが、平面形は楕円形であったと推測される。長辺は残存値で28cm、短辺は24cmである。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは5cmである。遺物は出土していない。

SK 316(図版4) J 3 グリッドに所在する。SD 320を切る。平面形は楕円形で、長径28cm、短径24cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは16cmである。遺物は出土していない。

SK 318(図版6) J 3 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径38cm、短径34cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは40cmである。遺構形状や覆土の堆積状況は、柱穴の典型的な在り方を示している。遺物は出土していない。

SK 320(図版6) J 3 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径32cm、短径30cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは36cmである。遺構形状や覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

SK 321(図版6) J 3 グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径24cm、短径20cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは36cmである。遺物は出土していない。

SK 322(図版6) J 3 グリッドに所在する。SK 323を切る。平面形は円形で、長径43cm、短径39cm。

断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは68cmである。造構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

S K 323(図版6) J 3グリッドに所在する。SK 322に切られる。平面形は円形で、長径31cm、短径は残存値で28cm。断面U字状で、確認面から底面までの深さは21cmである。遺物は出土していない。

S K 324(図版7) J 3グリッドに所在する。SK 325に切られるが、楕円形の平面形をもつ造構と推測される。長径は残存値で51cm、短径は残存値で32cm。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは7cmである。遺物は出土していない。

S K 325(図版7) J 3グリッドに所在する。SK 324を切り、SK 326に切られる。平面形は円形で、長径35cm、短径30cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは36cmである。造構形状や覆土の堆積状況は、柱穴の典型的な在り方を示している。遺物は出土していない。

S K 326(図版7) J 3グリッドに所在する。SK 325を切り、西側が調査区外に続いている。方形の平面形をもつ造構と推測される。確認した範囲での長径は45cm、短径は残存値で25cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは52cmである。造構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

S K 327(図版7) J 3グリッドに所在する。東側がわずかに調査区外へと続いているが、円形の平明をもつ造構である。長径31cm、短径は残存値で29cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは17cmである。遺物は出土していない。

S K 328(図版7) J 3グリッドに所在する。平面形は楕円形を呈し、長径39cm、短径32cmである。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは40cmである。造構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

S K 329(図版5) J 3グリッドに所在する。SK 330を切る。平面形は円形で、長径36cm、短径33cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは31cmである。遺物は出土していない。

S K 331(図版5) J 3グリッドに所在する。SK 332を切り、SK 330に切られる。楕円形の平面をもつ造構と推測される。長径34cm、短径は残存値で20cm。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは8cmである。遺物は出土していない。

S K 332(図版5) J 3グリッドに所在する。SK 331に切られる。西側が調査区外に続いている。円形の平面をもつ造構と推測される。確認した範囲での長径は64cm、短径は残存値で51cmである。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは26cmである。遺物は出土していない。

S K 333(図版7) J 3グリッドに所在する。SK 330に切られる。平面形は略円形で、長径42cm、短径41cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは26cmである。遺物は出土していない。

S K 334(図版7) J 3グリッドに所在する。SK 335を切る。平面形は略円形で、長径48cm、短径42cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは30cmである。遺物は出土していない。

S K 336(図版7) J 3グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径50cm、短径31cm。断面形は階段状を呈し、確認面から底面までの深さは26cmである。遺物は出土していない。

S K 337(図版7) J 3グリッドに所在する。SD 306に切られる。平面形は楕円形で、長径36cm、短径33cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは35cmである。造構形状や覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

S K 338(図版7) J 3グリッドに所在する。SD 306に切られる。平面形は楕円形で、長径42cm、短径は36cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは32cmである。遺物は出土していない。

**S K 339** (図版7) J 3 グリッドに所在する。S K 340 に切られる。平面形は不整形で、確認できる範囲での長径は 64cm、短径は 21cm である。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは 9cm である。S K 340 に関連する遺構か。遺物は出土していない。

**S K 340** (図版7) J 3 グリッドに所在する。S K 339 を切る。平面形は円形で、長径 43cm、短径 42cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 50cm である。遺構形状及び覆土の堆積状況から、柱穴と推測される。遺物は出土していない。

**S K 342** (図版7) J 3 グリッドに所在する。平面形は梢円形で、長径 42cm、短径 36cm。断面形は半円状で、確認面から底面までの深さは 15cm である。遺物は出土していない。

**S K 344**(図版7) J 3 グリッドに所在する。S D 307 に切られる。平面形は梢円形で、長径 51cm、短径 34cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは 54cm である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

**S K 346**(図版8) J 2 グリッドに所在する。平面形は梢円形で、長径 36cm、短径 34cm。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 41cm であった。西側にテラス状の段をもつ。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

**S K 347** (図版8) J 2 ~ 3 グリッドにかけて所在する。平面形は円形で、長径 38cm、短径 34cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 36cm であった。遺構形状や覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

**S K 348** (図版8) J 3 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 30cm、短径 26cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 20cm である。遺物は出土していない。

**S K 349** (図版8) J 2 グリッドに所在する。S D 319 を切る。遺構西半が調査区外に続いている。確認できる範囲の平面形は梢円形で、長径 50cm、短径 25cm。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 53cm である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

**S K 350** (図版8・11) J 2 グリッドに所在する。平面形態は円形で、長径 43cm、短径 42cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 51cm。遺構形状や覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。

本遺構からは磁石 1 点が出土している。これを図化した。11 は安山岩製の砥石で、細長い立方体状をなす。磨き作業を受け 4 側面とも平滑になっており、特に裏面は著しい。基部は折れ、先端部にも左右に欠損が見られる。

**S K 356** (図版8) J 3 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 23cm、短径 22cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 16cm である。遺物は出土していない。

**S K 357**(図版8) J 2 グリッドに所在する。S K 362 に切られる。平面形は梢円形で、長径 31cm、短径 26cm。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 40cm である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

**S K 360** (図版8) J 2 グリッドに所在する。東側が調査区外に続いている。確認できた範囲の平面形は梢円形で、長径 27cm、短径 23cm。断面形態は U 字状で、確認面から底面までの深さは 55cm である。遺構形状から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

**S K 370**(図版5) J 3 グリッドに所在する。S K 319 に切られる。平面形は梢円形で、長径 41cm、短径 33cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 19cm である。遺物は出土していない。

**S K 373** (図版8) J 2 グリッドに所在する。S K 374 を切る。平面形は円形で、長径 31cm、短径 30cm。

断面形はV字状で、確認面から底面までの深さは12cmである。遺物は出土していない。

S K 374 (図版8) J 2 グリッドに所在する。S K 375 を切り、S K 373 に切られる。平面形は不整楕円形で、長径は残存値で47cm、短径は42cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは15cmである。遺物は出土していない。

S K 375 (図版8) J 2 グリッドに所在する。S K 376 を切り、S K 374・S D 313 に切られる。平面形は楕円形で、長径は残存値で39cm、短径38cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは32cmである。造構覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

S K 377 (図版8) J 2 グリッドに所在する。S K 376 に切られるが、楕円形の平面をもつ造構と推測される。長径は残存値で69cm、短径は38cm。断面形は弓状で、確認面から底面までの深さは21cmである。遺物は出土していない。

S K 378 (図版9) J 2 グリッドに所在する。S D 315 を切る。平面形は不整楕円形で、長径48cm、短径42cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは24cmである。遺物は出土していない。

S K 380 (図版9) J 2 グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長径42cm、短径28cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは50cmである。造構形状及び覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

S K 381 (図版9) J 2 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径35cm、短径32cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは26cmである。遺物は出土していない。

S K 382 (図版9) J 2 グリッドに所在する。S K 383 を切る。平面形は円形で、長径25cm、短径22cm。断面形はV字状で、確認面から底面までの深さは11cmである。遺物は出土していない。

S K 383 (図版9) J 2 グリッドに所在する。S K 384 を切り、S K 382 に切られる。平面形は楕円形で、長径47cm、短径は残存値で30cmであった。断面形はV字状で、確認面から底面までの深さは16cmである。遺物は出土していない。

S K 384 (図版9) J 1・2 グリッドに所在する。S K 383 に切られる。確認できる範囲での平面形は楕円形で、長径は41cm、短径は32cm。断面形はV字状で、確認面から底面までの深さは21cmである。遺物は出土していない。

S K 385 (図版9) J 2 グリッドに所在する。S K 397 を切る。平面形は方形で、長辺51cm、短辺42cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは18cmである。遺物は出土していない。

S K 387 (図版9) J 1 グリッドに所在する。平面形は方形で、長辺26cm、短辺25cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは20cmである。小規模ながら、造構形状及び覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示している。遺物は出土していない。

S K 388 (図版9) J 1 グリッドに所在する。S D 316 を切る。平面形は楕円形で、長径78cm、短径40cm。断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは21cmである。遺物は出土していない。

S K 390 (図版10) J 1 グリッドに所在する。S D 317 に切られる。平面形は不整楕円形で、長径62cm、短径は残存値で40cm。断面形はU字状で、確認面から底面までの深さは35cmであった。造構形状及び覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

S K 391 (図版10) J 1 グリッドに所在する。S D 317 に切られる。確認できた範囲の平面形は楕円形で、長径は63cm、短径は53cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは24cmである。遺物は出土していない。

S K 394 (図版 10) J 3 グリッドに所在する。S D 306 と S D 307 とが交差する地点に位置し、これら遺構に切られる。平面形は円形で、長径・短径ともに 33cm。断面形は箱状で、確認面から底面までの深さは 38cm である。遺構形状及び覆土の堆積状況は典型的な柱穴の在り方を示す。遺物は出土していない。

S K 396 (図版 4) J 4 グリッドに所在する。S D 305 の底面で確認・検出した遺構で、西側が調査区外となる。略円形の平面をもつと推測され、確認した範囲での長径は 28cm、短径 25cm。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 21cm である。

本遺構からは磨石類が 1 点出土しているが、図化はしていない。

S K 397 (図版 9) J 1 + J 2 グリッドにまたがって所在する。S K 385 に切られる。確認できた範囲の平面形は不整形で、長径は 47cm、短径は 40cm。断面形は V 字状で、確認面から底面までの深さは 14cm である。遺物は出土していない。

S K 398 (図版 5) J 3 グリッドに所在する。S K 319 を切る。西側が調査区外となる。梢円形の輪文をもつと推測され、確認した範囲での長径は 23cm、短径は 14cm。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 50cm である。遺構形状及び覆土の堆積状況は、典型的な柱穴の在り方を示している。遺物は出土していない。

S K 399 (図版 3) J 4 グリッドに所在する。平面形は円形で、長径 33cm、短径 30cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 20cm である。遺構形状及び覆土の堆積状況から柱穴と推測される。遺物は出土していない。

S K 404 (図版 4) J 3 グリッドに所在する。S K 317 の東西断面で確認・検出した遺構であり、断面観察からは、S K 317 埋没後、これを掘り込んでいると判断できる。円形の平面をもつと推測され、径 25cm。断面形は U 字状で、確認面から底面までの深さは 26cm である。遺物は出土していない。自然礫が 2 点出土しており、柱穴の根固石として利用された可能性がある。

### (3) 溝状遺構 (図版 4・7 ~ 11)

S D 301 (図版 4・11) J 4 グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、東が調査区外に続いている。最大幅 40cm。断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは 4cm である。

本遺構からは、台石と磨石が各 1 点ずつ出土した。このうち台石 1 点を図化した。12 は①層上から出土した安山岩製の台石である。長さ 20.5cm、幅 23.1cm、厚さ 7.3cm、重さ 5097.5 g を測る。右辺一部と下辺は欠損する。横断面の上面はほぼ平らだが、下面は椀状をなす。表面中央付近に敲打痕が認められる。表面側には黒化している。一方、裏面は赤化しており、底面付近はスリ痕が顕著である。帰属時期は判然としない。付近で鍛冶を示す痕跡は検出されていないものの、中世の鍛冶関連遺物の可能性がある。

S D 302 (図版 4・11) J 4 グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、周辺の S D 301・303・304 と平行する。西側で S D 305 に切られる。東西両側でやや広く、中央で狭い。最大幅 72cm。確認面から底面までの深さは 8 cm である。

遺物は 1 点出土し、これを図化した。13 は珠洲焼の甕片で、遺構底面から出土した。小破片のため詳細は不明であるが、吉岡編年 V 期に位置づけられると判断される。

S D 303 (図版 4) J 3 グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、S D 304 ほか周辺の溝状遺構と平行する。最大幅 29cm。確認面から底面までの深さは 8 cm である。S D 304 と同様に S K 312 を切ると推測されるが、S K 312 の南北セクションでは観察できなかった。したがって、このラインより東に遺構西端があつ

たものと考えられる。遺物は出土していない。

S D 304 (図版4・11) J 3 から J 4 グリッドにかけて所在する。S K 312 を切り、S D 305 に切られる東西方向に軸をもち、S D 303 ほか周辺の溝状造構と平行する。最大幅72cm。確認面から底面までの深さは30cmである。

本造構からは青磁1点、珠洲焼2点、合計3点出土した。全点を図化した。14は青磁の碗片である。14～15世紀代の隆泉窯の所産と考えられる。15は珠洲焼窯の体部片。小破片のため詳細は不明であるが、吉岡編年V期に位置づけられよう。16は珠洲焼片口鉢の口縁部資料。口縁部端部に柳目波状文が施されている。体部は直線的な形態をなす。吉岡編年V期に位置づけられる。

S D 305 (図版4) J 3 から J 4 グリッドにかけて所在する。S D 302・304 と S K 315・396 を切り、S K 317 に切られる。S D 304などと平行して東西に伸びるが、調査区西端で曲がり南へ伸びている。全幅の判明している部分での最大幅は56cm。確認面から底面までの深さは14cmである。

本造構からは磨石類が1点出土しているが、図化はしていない。

S D 306 (図版2・7・10) J 3 グリッドに所在する。東西方向に軸をもち、調査区を横断する。幅は45cm、確認面から底面までの深さは4cmである。S K 337・338・394 を切り、T字状に交差するS D 307 に切られる。遺物は出土していない。

S D 307 (図版2・7・8・10) J 2 から J 3 グリッドにかけて所在する。南北に軸をもち、幅30cm、確認面から底面までの深さは3cm。S K 344・394・S D 306 を切る。S D 308・309 と連続する可能性もある。遺物は出土していない。

S D 311 (図版2・8) J 2 グリッドに所在する。S K 362 を切る。確認された部分での最大幅は27cm、底面までの深さは10cmである。本造構の北に位置するS D 312 と同一造構の可能性がある。

S D 313 (図版2・8) J 2 グリッドに所在する。S K 375 を切る。調査区西壁に沿うようにして南北に伸びる。確認された範囲での幅は28cm、底面までの深さは17cmであった。

本造構からは、頁岩製の剥片が1点出土したが、図化していない。

S D 315 (図版2・9) J 2 グリッドに所在する。S K 378 に切られる。南北に軸をもち、幅は25cm。確認面から底面までの深さは7cmである。位置的には南のS D 314 と連続する可能性も考えられるが、断面図からは各自別に掘り込まれた造構と判断される。

本造構からは、頁岩製の剥片が1点出土したが、図化していない。

S D 316 (図版10) J 1 グリッドに所在する。S K 402 を切り、S K 388・S D 317 に切られる。S D 318 と同一造構と考えられる。南北に軸をもち、最大幅は52cm。横断面形は台形状で、確認面から底面までの深さは27cmである。遺物は出土していない。

S D 317 (図版10) J 1 グリッドに所在する。S K 390・391・400・401・S D 316・318 を切る。東西に軸をもち、最大幅136cmと広い。横断面形は階段状で、確認面から底面までの深さは24cmである。遺物は出土していない。

S D 318 (図版10) J 1 グリッドに所在する。S D 317 に切られる。南北に軸をもち、最大幅63cm。横断面形はやや不整な台形状で、確認面から底面までの深さは21cmである。長軸方位、造構形状等からS D 316 と同一造構と考えられる。遺物は出土していない。

第2表 道構観察表(1)

図版No.	地層名	ダリヤド	種別	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	角度(m)	覆土	遺物	他地層とのなり合ひ關係
3	SK301	J 4	土坑	略方形	台形状	<2.33D	0.63	3		深淵地・金属製品・骨	SK302に切られる
3	SK305	J 4	土坑	椭円形	弓状	0.69	0.30D	0.18	2		SK306を切る
3	SK306	J 4	土坑	椭円形	台形状	<1.25D	0.49D	0.24	3		深淵地1・合石1
4	SK312	J 3・J 4	土坑	方形	扁状	1.30	1.22	0.50	4	N-79°-E	SK303・SK304に切られる
4	SK317	J 3	土坑	長方形	扁状	1.77	0.33D	0.29	6	N-1°-E	深淵地2・磨石瓶3
5	SK319	J 3	土坑	不整方形	扁状	<0.74D	0.88	0.10	1		SK370・SK398に切られる
5	SK340	J 3	土坑	圓丸形	弓状	0.91	0.73	0.11	2		SK391に切られる
5	SK345	J 2	土坑	方形	台形状	1.85	0.41D	0.31	2	N-8°-E	SK305を切る
6	SK345	J 2	土坑	円形	不整方形	0.71	0.63	0.13	2		SK358を切る
6	SK369	J 2	土坑	不整形	台形状	<0.75D	0.85	0.29	5		SK359に切られる
5	SK366	J 3	土坑	方形	台形状	<1.30D	0.102D	0.19	2	N-3°-W	SK345に切られる
3	SK302	J 4	ビット	椭円形	離段状	1.01	0.72	0.45	3		SK301を切る
3	SK303	J 4	ビット	方形9	台形状	0.26	0.10D	0.28	1		
3	SK304	J 4	ビット	円形	U字状	0.29	0.28	0.22	2		
4	SK307	J 4	ビット	椭円形9	離段状	0.20	0.16	0.18	1		SK302に切られる
6	SK308	J 4	ビット	方形	U字状	0.34	0.30	0.56	6		
6	SK309	J 4	ビット	方形	台形状	0.27	0.20D	0.04	1		SK310に切られる
6	SK310	J 4	ビット	長方形	離段状	0.50	0.34	0.66	5		SK309を切る
6	SK311	J 4	ビット	椭円形	U字状	0.34	0.29	0.25	4		
6	SK313	J 3	ビット	椭円形	扁状	0.47	0.38	0.43	5		SK314を切る
6	SK314	J 3	ビット	椭円形	弓状	<0.29D	0.24	0.05	1		SK313に切られる
4	SK315	J 3	ビット	椭円形	U字状	0.28	0.25	0.19	1		SK305に切られる
4	SK316	J 3	ビット	椭円形	U字状	0.29	0.24	0.16	1		SK320を切る
6	SK318	J 3	ビット	円形	台形状	0.38	0.34	0.40	3		
6	SK320	J 3	ビット	円形	扁状	0.32	0.30	0.36	3		

第2表 道構觀察表(2)

回数No.	被構名	ダリッド	種別	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	覆土	蓋物	他構体との取り合い關係
6	SK321	J 3	ビット	横円形	合形状	0.24	0.20	0.36	1	SK323を切る
6	SK322	J 3	ビット	円形	合形状	0.43	0.39	0.68	3	SK321に切られる
6	SK323	J 3	ビット	円形	U字状	0.31	0.28D	0.21	3	SK322に切られる
7	SK324	J 3	ビット	横円形	弓状	(0.51)	(0.32)	0.07	1	SK325に切られる
7	SK325	J 3	ビット	円形	U字状	0.35	0.30	0.26	2	SK324に切る/SK326に切られる
7	SK326	J 3	ビット	方形	合形状	0.45	0.25D	0.62	3	SK325を切る
7	SK327	J 3	ビット	円形	合形状	0.31	0.29D	0.17	1	
7	SK328	J 3	ビット	横円形	合形状	0.39	0.32	0.40	1	
5	SK329	J 3	ビット	円形	U字状	0.26	0.33	0.31	1	SK330を切る
5	SK331	J 3	ビット	横円形	弓状	0.34	0.20D	0.68	1	SK332に切れる
5	SK332	J 3	ビット	円形	離段状	0.64	0.51D	0.26	2	SK331に切られる
7	SK333	J 3	ビット	横円形	離段状	0.42	0.41	0.26	1	SK330に切られる
7	SK334	J 3	ビット	斜円形	離段状	0.48	0.42	0.30	3	SK335を切る
7	SK335	J 3	ビット	横円形	U字状?	(0.27)	0.31	0.10	1	SK334に切られる
7	SK336	J 3	ビット	横円形	離段状	0.50	0.31	0.26	3	
7	SK337	J 3	ビット	横円形	U字状	0.26	0.33	0.35	3	
7	SK338	J 3	ビット	横円形	合形状	0.42	0.36	0.32	3	
7	SK339	J 3	ビット	不整形	弓状	0.64	0.21D	0.09	1	SK340に切られる
7	SK340	J 3	ビット	円形	台形状	0.43	0.42	0.50	4	SK339を切る
2	SK341	J 3	ビット	横円形	合形状	0.24	0.24	0.06	1	SK340に切られる
7	SK342	J 3	ビット	横円形	半円状	0.42	0.36	0.15	2	
7	SK344	J 3	ビット	横円形	離段状	0.51	0.34	0.44	1	SK340に切られる
8	SK346	J 2	ビット	横円形	U字状	0.26	0.34	0.41	2	
8	SK347	J 2・J 3	ビット	円形	台形状	0.38	0.34	0.36	3	
8	SK348	J 3	ビット	円形	台形状	0.30	0.26	0.20	1	

第2表 道構観察表(3)

回収No.	漁場名	ダリッド	種別	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	覆土	遺物	他遺構との切り合い關係
8	SK349	J 2	ビット	横円形	U字状	0.50	<0.25>	0.53	5	SK319を切る
8	SK350	J 2	ビット	円形	縦状	0.43	0.42	0.51	4	磁石 1
10	SK351	J 2	ビット	斜円形	台形状	0.26	0.25	0.17	2	SK319に切られる
8	SK352	J 2	ビット	円形?	台形状?	0.22	0.19	0.13	2	SK319に切られる
2	SK353	J 2	ビット	横円形	階段状	0.33	0.25	0.18	1	
2	SK354	J 2	ビット	横円形	弓状	0.27	0.23	0.09	1	
8	SK356	J 3	ビット	円形	縦状	0.23	0.22	0.16	1	
8	SK357	J 2	ビット	横円形	U字状	0.31	0.26	0.40	1	SK302に切られる
6	SK358	J 2	ビット	横円形	弓状	<0.15>	0.19	0.11	1	SK335・SK319に切られる
6	SK359	J 2	ビット	横円形	弓状	0.42	0.37	0.13	1	SK335・SK338を切る
8	SK360	J 2	ビット	横円形	U字状	0.27	<0.23>	0.65	2	
2	SK361	J 2	ビット	横円形	台形状	0.27	0.23	0.10	1	
8	SK362	J 2	ビット	横円形	台形状	<0.49>	0.52	0.07	1	SK311に切られる/SK337を切る
2	SK363	J 2	ビット	横円形	縦状	0.24	0.17	0.04	1	
2	SK364	J 2	ビット	横円形	階段状	0.31	0.22	0.09	1	
2	SK365	J 2	ビット	円形	縦状	0.37	0.35	0.05	1	
2	SK366	J 2	ビット	横円形	縦状	0.39	0.31	0.06	1	
2	SK367	J 2	ビット	方形	縦状	0.28	0.28	0.05	1	SK374を切る
2	SK368	J 2	ビット	横円形	縦状	0.24	0.21	0.10	1	SK373に切られる/SK375を切る
5	SK370	J 3	ビット	横円形	台形状	0.41	0.33	0.19	3	SK319に切られる
2	SK371	J 2	ビット	円形	縦状	0.33	0.28	0.10	1	
2	SK372	J 2	ビット	横円形	弓状	0.21	0.18	0.23	1	
8	SK373	J 2	ビット	円形	V字状	0.31	0.30	0.12	2	
8	SK374	J 2	ビット	不整圓形	U字状	<0.47>	0.42	0.15	3	
8	SK375	J 2	ビット	横円形	U字状	<0.39>	0.38	0.32	4	SK374・SK313に切られる/SK376を切る

第2表 道構觀察表(4)

図版No.	測線名	ダリッド	種別	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	覆土	地物	備考
8	SK376	J 2	ビット	方形?	台形状?	(0.18)	0.30	0.12	1		SK375・SK313に切られる/SK377を切る
8	SK377	J 2	ビット	梢円形	弓状	(0.69)	0.38	0.21	1		SK376に切られる
9	SK378	J 2	ビット	不整円形	台形状	0.48	0.42	0.24	4		SD315を切る
9	SK380	J 2	ビット	梢円形	階段状	0.42	0.28	0.50	5		
9	SK381	J 2	ビット	U字状	円形	0.35	0.32	0.26	4		
9	SK382	J 2	ビット	円形	V字状	0.25	0.22	0.11	1		SK383を切る
9	SK383	J 2	ビット	梢円形	V字状	0.47	0.30	0.16	1		SK382に切れる/SK384を切る
9	SK384	J 1・J 2	ビット	梢円形	V字状	(0.41)	0.32	0.21	3		SK383に切れる
9	SK385	J 2	ビット	方形	台形状	0.51	0.42	0.18	2		SK387を切る
2	SK386	J 1	ビット	梢円形	扁状	0.41	0.33	0.04	1		
9	SK387	J 1	ビット	方形	扁状	0.26	0.25	0.20	3		
9	SK388	J 1	ビット	梢円形	階段状	0.78	0.40	0.21	5		SD316を切る
2	SK389	J 1	ビット	円形?	扁状	(0.30)	0.28	0.16	1		
10	SK390	J 1	ビット	不整圓形	U字状	0.62	(0.40)	0.35	4		SD317に切られる
10	SK391	J 1	ビット	梢円形	台形状	(0.63)	0.53	0.24	5		SD317に切られる
2	SK392	J 1	ビット	梢円形	弓状	0.28	0.14	0.18	1		
2	SK393	J 1	ビット	円形	弓状	0.31	0.21	0.15	1		
10	SK394	J 3	ビット	円形	扁状	0.33	0.33	0.38	4		SD306・SD307に切られる
4	SK396	J 4	ビット	梢円形	U字状	0.28	(0.25)	0.21	1	磨石類 1	
9	SK397	J 1・J 2	ビット	不整形	V字状	(0.47)	0.40	0.14	1		SK385に切られる
5	SK398	J 3	ビット	梢円形	U字状	0.23	(0.14)	0.50	2		SK319を切る
3	SK399	J 4	ビット	円形	台形状	0.33	0.20	0.20	3		
10	SK400	J 1	ビット	梢円形	U字状	0.36	0.35	0.14	1		SD317に切られる
10	SK401	J 1	ビット	方形?	台形状	0.39	0.32	0.12	1		SD317に切れる
5	SK403	J 3	ビット	不整形	弓状	0.37	0.28	0.19	1		SK319に切れる

第2表 造構観察表(5)

図面No.	造構名	グリッド	種別	平面形	断面形	長軸(m)	短軸(m)	深度(m)	覆土	長軸方位	遺物	地盤構造の切り合ひ箇所
4	SK0404	J 3	ピット	不明	U字状	0.25	-	26.00	2	-	SK317を切る	
4	SD001	J 4	清水道構	直線形	台形状	1.67	0.40	0.04	1	N=87°-E	台石 1・蓋石 1	
4	SD002	J 4	清水道構	直線形	V字状	2.74	0.72	0.08	1	N=85°-W	深糞坑	SD003に切られる
4	SD003	J 3	清水道構	直線形	台形状	0.85	0.29	0.08	1	-	-	SK312を切る
4	SD004	J 3 + J 4	清水道構	直線形	台形状	2.42	0.72	0.30	1	N=85°-W	深糞坑 2・青磁 1	SK312を切る/SK005に切られる
4	SD005	J 3 + J 4	清水道構	直線形	台形状	4.21	0.56	0.14	3	-	磨石 1	SK311に切られる/SK004・SK015・SK016・SK019を切る
2 + 7 + 10	SD006	J 3	清水道構	直線形	台形状	2.73	0.65	0.04	1	N=85°-W	-	SK313・SK008・SK094を切る/SK007に切られる
2 + 7 + 8 + 10	SD007	J 2 + J 3	清水道構	直線形	台形状	4.25	0.30	0.03	1	N=7°-E	-	SK314・SK094・SK006を切る
2	SD008	J 2	清水道構	直線形	台形状	0.20	0.18	0.07	1	N=12°-E	-	SD007・SK009と同一点
2	SD009	J 2	清水道構	直線形	台形状	0.56	0.23	0.05	1	N=10°-E	-	SD008と同一点
2	SD010	J 2	清水道構	直線形	台形状	0.39	0.33	0.05	1	N=75°-E	-	
2 + 8	SD011	J 2	清水道構	直線形	台形状	0.77	0.27	0.10	1	N=9°-E	-	SK053を切る/SK312と同一点
2	SD012	J 2	清水道構	直線形	台形状	0.36	0.38	0.05	1	N=10°-E	-	SD011と同一点
2 + 8	SD013	J 2	清水道構	U字状	9	2.90	0.28	0.17	1	N=10°-E	銅片 1	SK073を切る
9	SD014	J 2	清水道構	直線形	開設状	0.45	0.33	0.16	5	N=9°-E	-	
2 + 9	SD015	J 2	清水道構	直線形	U字状	0.81	0.25	0.07	1	N=8°-E	銅片 1	SK079に切られる/SK002を切る/SK015と同一点
10	SD016	J 1	清水道構	直線形	台形状	1.73	0.52	0.27	4	N=7°-E	-	SK098・SK011に切られる/SK002を切る/SK016・SK017を切る
10	SD017	J 1	清水道構	直線形	開設状	2.73	1.36	0.24	6	N=87°-E	-	SK099・SK091・SK040・SK041・SK016・SK017を切る
10	SD018	J 1	清水道構	直線形	台形状	2.56	0.63	0.21	2	N=7°-E	-	SD011に切られる/SK016と同一点
10	SD019	J 2	清水道構	不整形	U字状	0.74	0.38	0.20	3	-	-	SK049に切られる/SK051・SK052を切る
4	SD020	J 3	清水道構	直線形	U字状	<0.37>	0.16	0.10	1	N=85°-W	-	SK016・SK017に切られる

第3表 陶磁器觀察表

番號 No.	出土 場所	種別	器種	部位	剖面			土質	色調(外底)	焼成	鉄法(内/外)・文様	外側 内面	遺物の時期	打圧密度は3cmあたり	
					寸法 (mm)	直径 (mm)	厚さ (mm)								
1	SK201	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	7.0	10.6	~	~1mm透明粒子少	316/4	硬	リゾ	平行式打圧
2	SK201	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	8.5	32.8	~	~1mm白色粒子少	316/4	硬	ナゾ	平行式打圧
3	SK201	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	6.0	8.0	~	~1mm白色粒子少	316/4	硬	ナゾ	平行式打圧
4	SK201	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	8.0	15.4	~	~1mm白色粒子少	316/4	硬	ナゾ	平行式打圧
5	SK201	珠洲燒	片口杯	底部	~	~	~	14.0	125.1	~	~1mm不透明粒子少	316/4	普	ロクロナゾ	~
6	SK201	珠洲燒	片口杯	口縫部	~	~	~	10.0	114.5	~	~1mm白色透明粒子少	316/4	普	ロクロナゾ	平行式打圧/脚なし目 取り1111
8	SK206	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	8.0	51.6	~	~1mm白色粒子少	316/4	硬	押压痕/ナゾ	平行式打圧
9	SK317	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	5.9	13.7	~	~1mm不透明粒子少	316/4	硬	押压痕/ナゾ	平行式打圧
10	SK317	珠洲燒	甕	底部	~	~	~	18.0	106.7	~	~1mm白色不透明粒子少	316/4	普	ロクロナゾ	~
13	SD002	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	8.0	8.5	~	~1mm白色粒子少	316/4	普	ロクロナゾ	平行式打圧
14	SD004	青磁	碗	底部	~	~	~	6.0	20.6	~	~1mm白色粒子少	2,506/1	硬	~	打圧密度: 8日 14~15世紀
15	SD004	珠洲燒	甕	体部	~	~	~	9.0	10.0	~	~1mm白色粒子少	316/4	硬	ロクロナゾ/繩	平行式打圧
16	SD004	珠洲燒	片口杯	口縫部	~	~	~	9.0	62.7	~	~2mm白色粒子多	1077/1	軟	ロクロナゾ/繩 目状状文	打圧密度: 7日 Vゾ

第4表 石器觀察表

番號 No.	出土 場所	種別	剖面			土質	石	材	備考
			寸法 (mm)	直径 (mm)	厚さ (mm)				
11	SK350	砾石	7.3	2.9	2.0	69.2	安山岩		
12	SD001	合石	20.5	23.1	7.3	3097.5	安山岩		

第5表 金属製品觀察表

番號 No.	出土 場所	種別	剖面			土質	石	材	備考
			寸法 (mm)	直径 (mm)	厚さ (mm)				
7	SK351	~	3.9	0.8	0.3	3.7			

## 第V章　まとめ

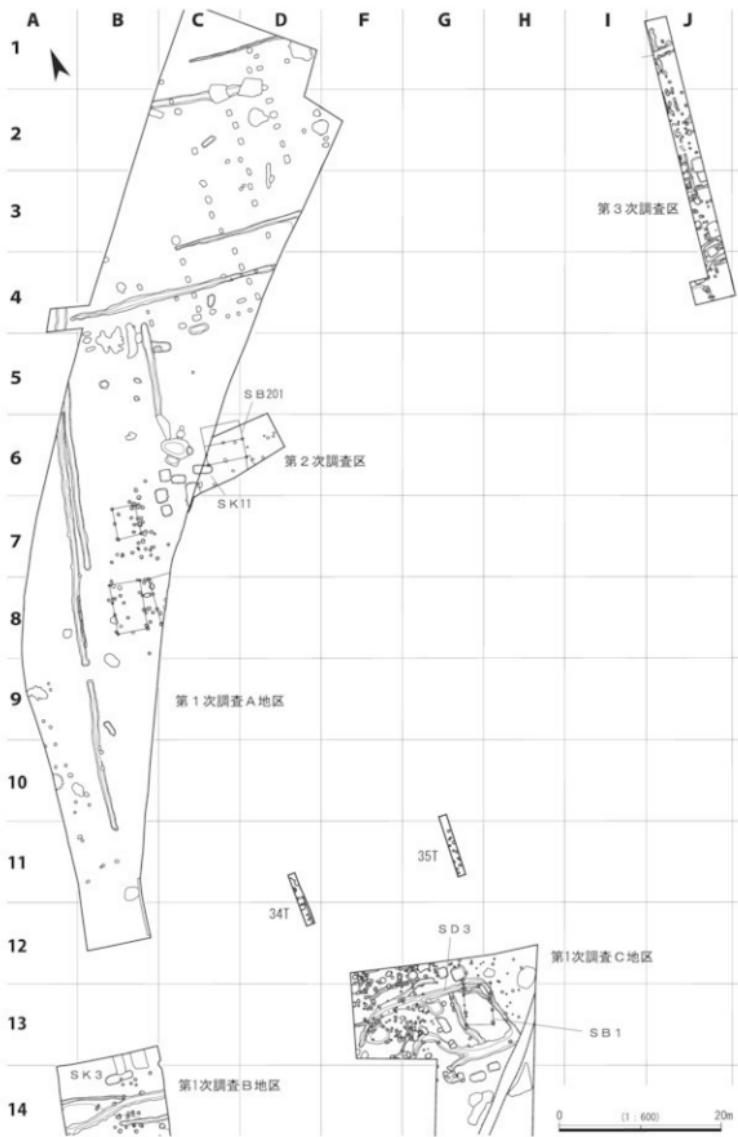
第1章でも述べたとおり、第3次調査区は中世期の浦畠遺跡の縁辺部に相当し、遺構密度も低いと予測していた。しかし、102.9m<sup>2</sup>という調査面積に対して121基もの遺構が検出されるという結果となった。このうちの大多数、90基はピットに分類される。調査区の制約があり配列を認めることはできなかったが、掘立柱建物跡が複数棟存在していたと推測される。出土した株洲焼片から得られた年代幅が14世紀後半～15世紀前半（吉岡編年IV期～V期）、とりわけ15世紀前半期にまとまるにも関わらず、遺構の重複が相当数認められるため、短期間のうちに活発な土地利用があったと考えられる。

第1次調査A地区・第2次調査区では遺構の重複が少なく、比較的整然とした建物配置が推定される一方、第1次調査C地区北端では遺構が複雑に重複するという状況が確認されていた。今回実施した第3次調査によって、後者は局所的な様相ではないことが示されたと言える。平成26年確認調査（34・35T）の結果と合わせると、第3次調査区と第1次調査区C地区北端を結ぶ範囲に、同様の遺構分布が展開していると予想したい。

しかしながら、西側（第1次調査A地区・第2次調査区）と東側（第1次調査C地区北端～第3次調査区）とで対照的な遺構分布が示されながらも、各地点とも溝状遺構、掘立柱建物跡（ピット）、方形～長方形プランの土坑という遺構によって構成される点で一致し、これら遺構の軸がほぼ共通することが確認される。方形～長方形プランの土坑が群集する傾向も共通しており、ここからは、中世期における存続期間において遺跡全体が共通する計画あるいは意識によって包括的に利用され、その上で遺構群が構築されていた可能性が示唆される。つまり西側と東側にみられる遺構分布の在り方の相違は、全体における施設の性格や位置付けの違いに起因するのだろう。

第1次調査においては、C地区SD3における和鏡の特異な出土状況を祭祀行為の結果とし、加えて方形～長方形プランの土坑を土壤墓とみることによって、遺跡を在地勢力の葬送の場として捉えた。続く第2次調査では、方形～長方形プランの土坑群を取り囲む建物配置と日常具の欠落から、ここに非日常的な空間を想定した。第3次調査の成果も、通常の集落遺跡ではないという遺跡への理解に沿うものである。ただし、J3グリット周辺で確認される遺構の切り合い関係をみると、SK312→SD303・304→SD302・SK315・396→SD305→SK317→SK404となっている。したがって、ここでは長方形プランの土坑→溝状遺構→溝状遺構・ピット（掘立柱建物跡？）→溝状遺構→長方形プランの土坑→柱穴（掘立柱建物跡）という変遷が推測される。第1次調査C地区では溝状遺構SD3を掘立柱建物跡SB1が掘り込んでおり、第2次調査区でも長方形プランの土坑SK11を掘立柱建物跡SB201が掘り込んでいることから、中世期における遺跡の変遷にあって、その終末期は建物群だけが作られる時期だったという可能性が示唆される。

このように、第3次調査の実施によって、浦畠遺跡の中世像に対して新たな視座を得ることが出来た。今後、未調査部分の調査によって、その検証を行っていくこととしたい。

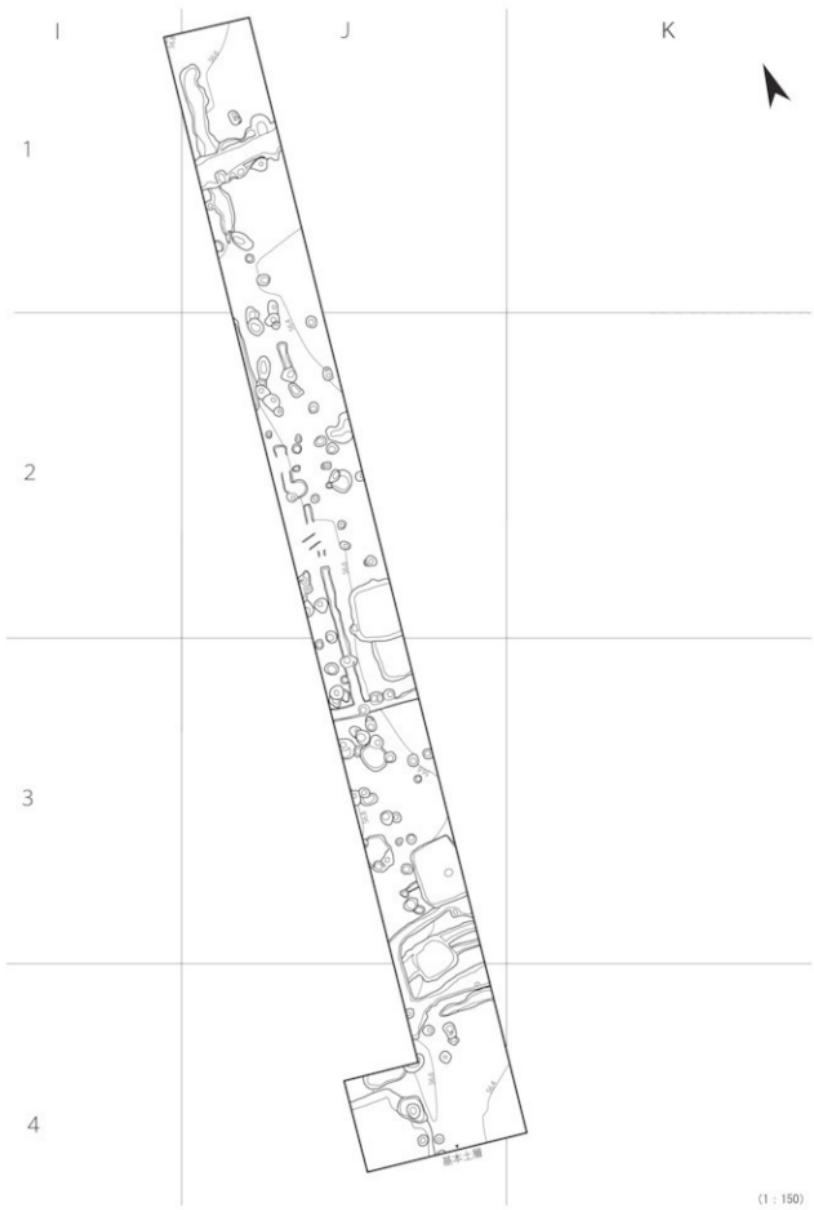


第4図 中世期の遺構分布

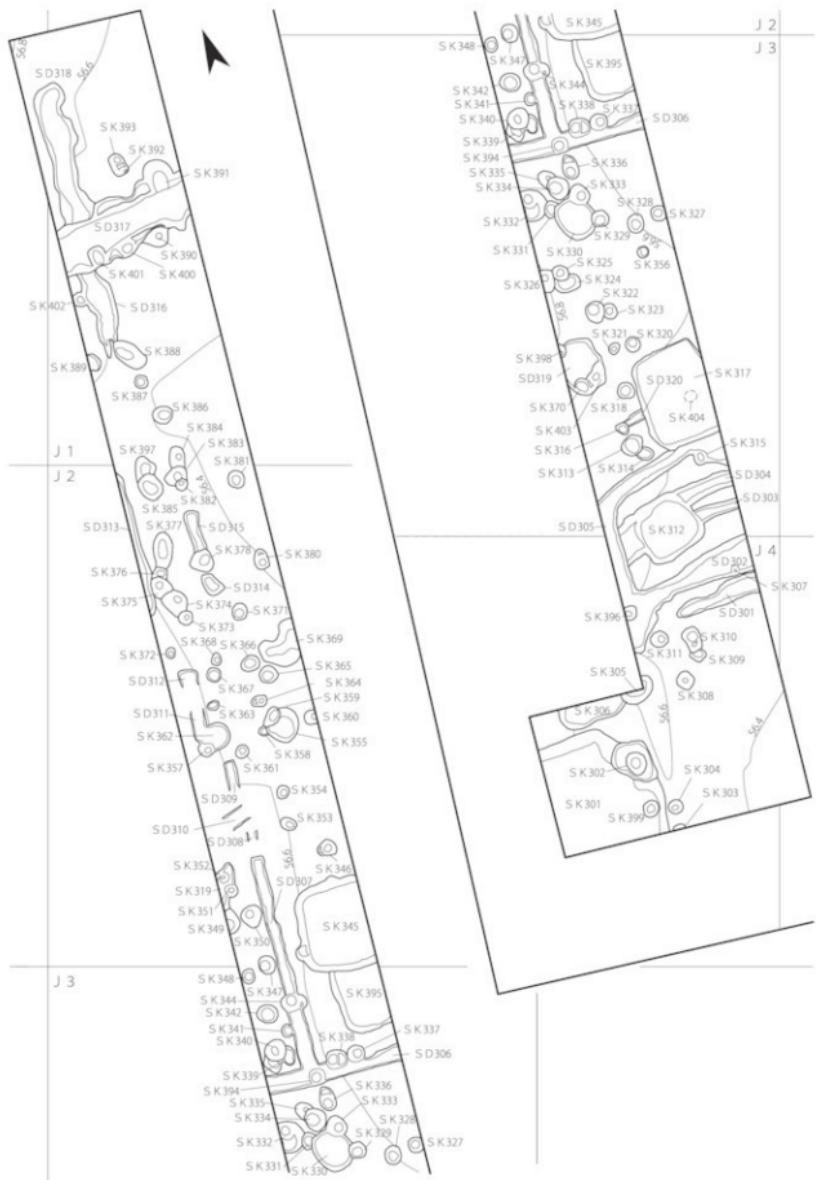
## 参考文献（編集と発行が同一の場合、発行元を省略）

- 井上慶隆 2001 「紙屋莊」越路町編『越路町史』通史編上巻 146-157 頁。
- ト部厚志 2008 「長岡市浦畠遺跡における火山灰分析」長岡市教育委員会編『浦畠遺跡』 46-50 頁。
- 遠藤季司 1998 「中世の遺跡と遺物（集落跡・古墳出土地）」越路町編『越路町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世 越路町 289-350 頁。
- 小田島光武 1815 『越後野志』（新潟県立図書館所蔵）
- 加藤 学 1999 「造構の形態分類」新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団編『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 和泉A遺跡』（本文・観察表編）28-29 頁。
- 草間文績 1818 『越後輿地図』（長岡市中央図書館文書資料室所蔵）
- 越路町 1998 『越路町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世。
- 田中洋史 2009 「朝日百塚に関する文献資料」『長岡郷土史』第 46 号 48-50 頁。
- 長岡郷土史研究会 2002 『長岡の古地図その2』。
- 長岡市 1992 『長岡市史』資料編Ⅰ 考古。
- 長岡市教育委員会 2007 「来迎寺浦畠地区試掘調査」『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 20 頁。
- 長岡市教育委員会 2008 『浦畠遺跡』。
- 長岡市教育委員会 2011 『浦畠遺跡II』。
- 長岡市教育委員会 2015 「浦畠遺跡確認調査」『平成26年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 8 頁。
- 鳴海忠夫 1998 「中世の遺跡と遺物（城館跡）」越路町編『越路町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世 351-412 頁。
- 新潟県 1987 『新潟県史』別編3 人物編。
- 文化庁文化財部記念物課・（独法）国立文化財機構奈良文化財研究所 2010 『発掘調査のてびき—整理・報告書編一』  
文化庁文化財部記念物課。
- 丸山元純 1756 『越後名寄』卷第五前（今泉省三・真水淳編 1978 『越佐叢書』第十五巻 野島出版 101-114 頁。）
- 柳 恒雄 1998 「越路町の大地概観 先人たちの生活基盤」越路町編『越路町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世 4-5 頁。
- 吉岡康鶴 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館。
- 渡辺秀夫 2007 「新潟県越後平野南西部の河成段丘の編年と構造運動」『地球科学』第 61 号 129-142 頁。

# 図 版



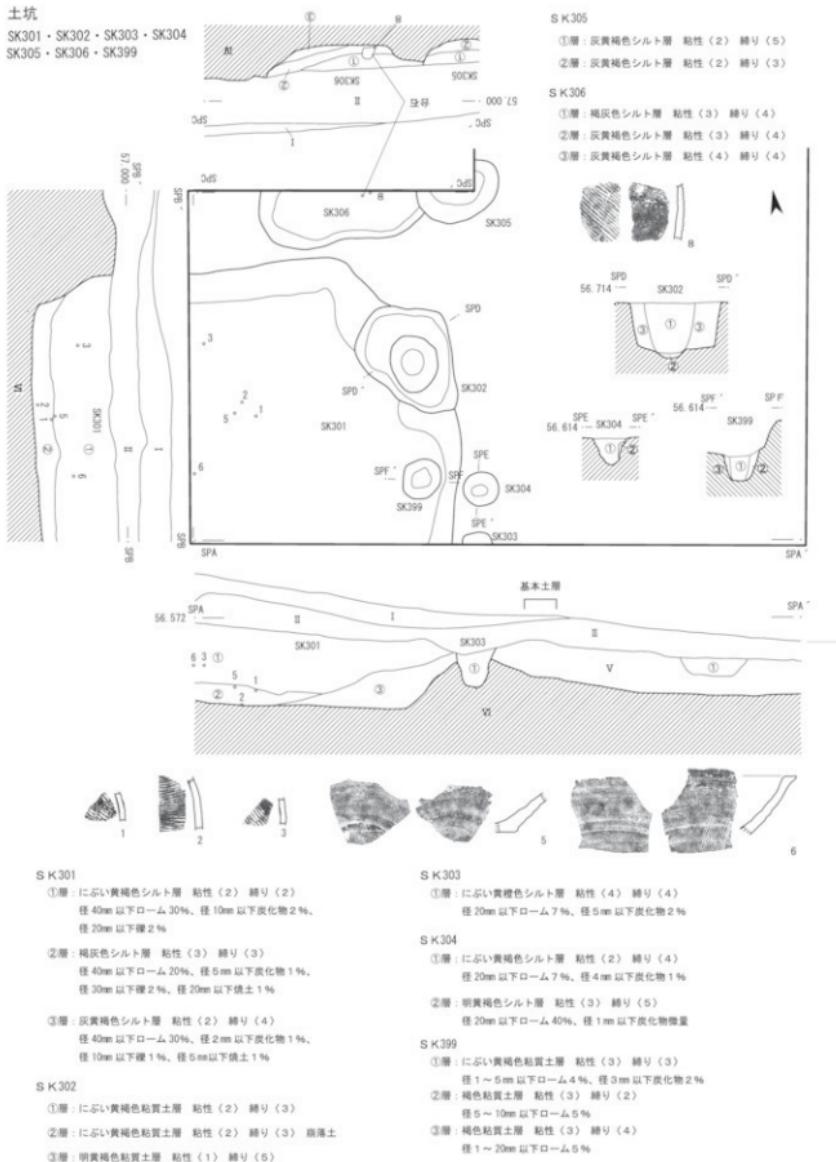
(1 : 150)



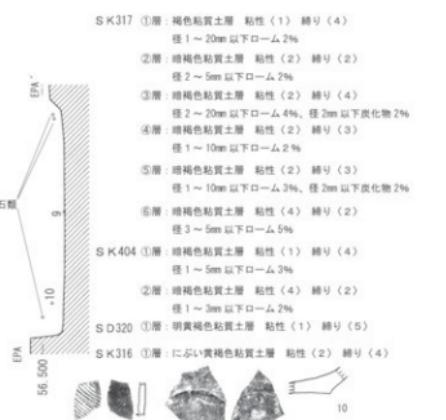
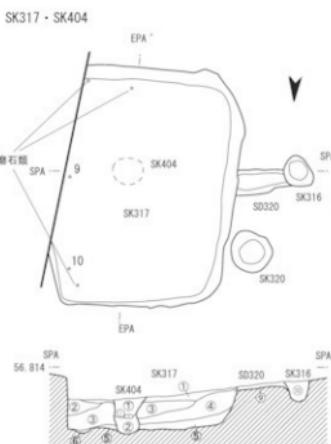
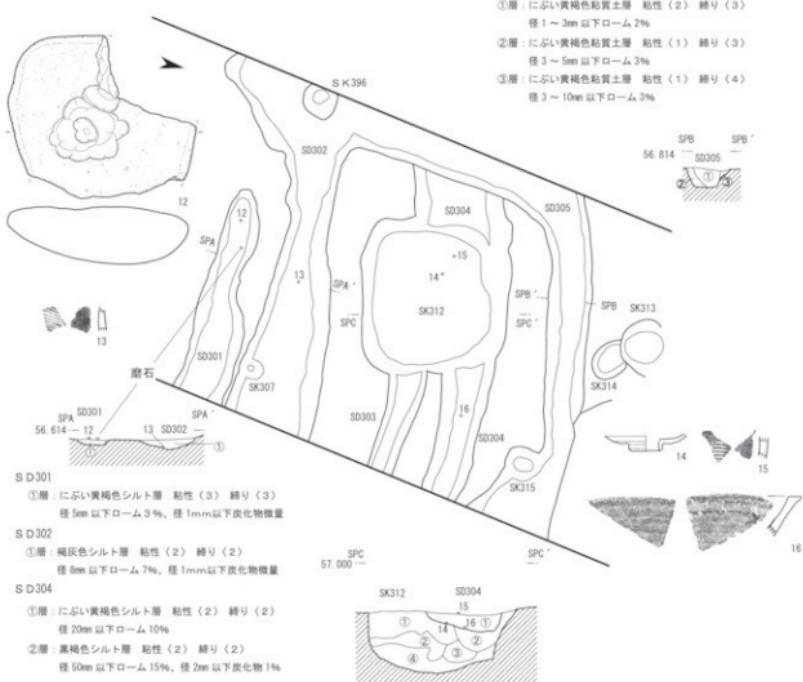
(1 : 100)

图 版 3

### 個別構造図①

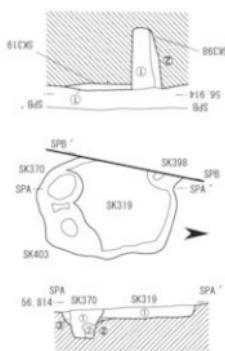


SK312・SD301・SD302・SD303・SD304・SD305



遺構図 (1:40) 遺物 (1:6)

SK319・SK370・SK398・SK398



SK319

①層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（5）  
径 20mm 以下ローム 40%、径 3mm 以下炭化物微量

②層：明黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（5）  
径 5mm 以下三層土 1%  
③層：明黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（5）  
径 3mm 以下三層土 1%

SK370

①層：灰黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）  
径 20mm 以下ローム 20%、径 3mm 以下炭化物微量

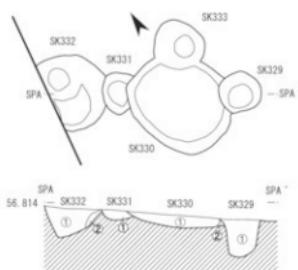
②層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）  
径 10mm 以下ローム 40%

SK398

①層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（3） 繊り（3）  
径 1～5mm 以下ローム 3%、径 2mm 以下炭化物 2%

②層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（4） 繊り（3）  
径 1～20mm 以下ローム 4%、径 2mm 以下炭化物 1%

SK329・SK330・SK331・SK332・SK333



SK329

①層：暗褐色シルト層 粘性（3） 繊り（4）  
径 20mm 以下ローム 3%

②層：明黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（3） 原落土  
径 10mm 以下ローム 40%

SK330

①層：黒褐色シルト層 粘性（3） 繊り（4）  
径 2mm 以下ローム 微量、径 1mm 以下炭化物微量

SK331

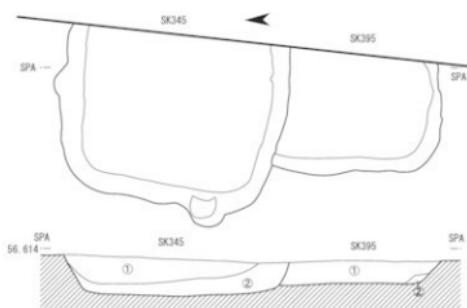
①層：灰黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（5）  
径 30mm 以下ローム 40%

SK332

①層：灰黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（3）  
径 20mm 以下ローム 20%

②層：明黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（3）

SK345・SK395



SK345

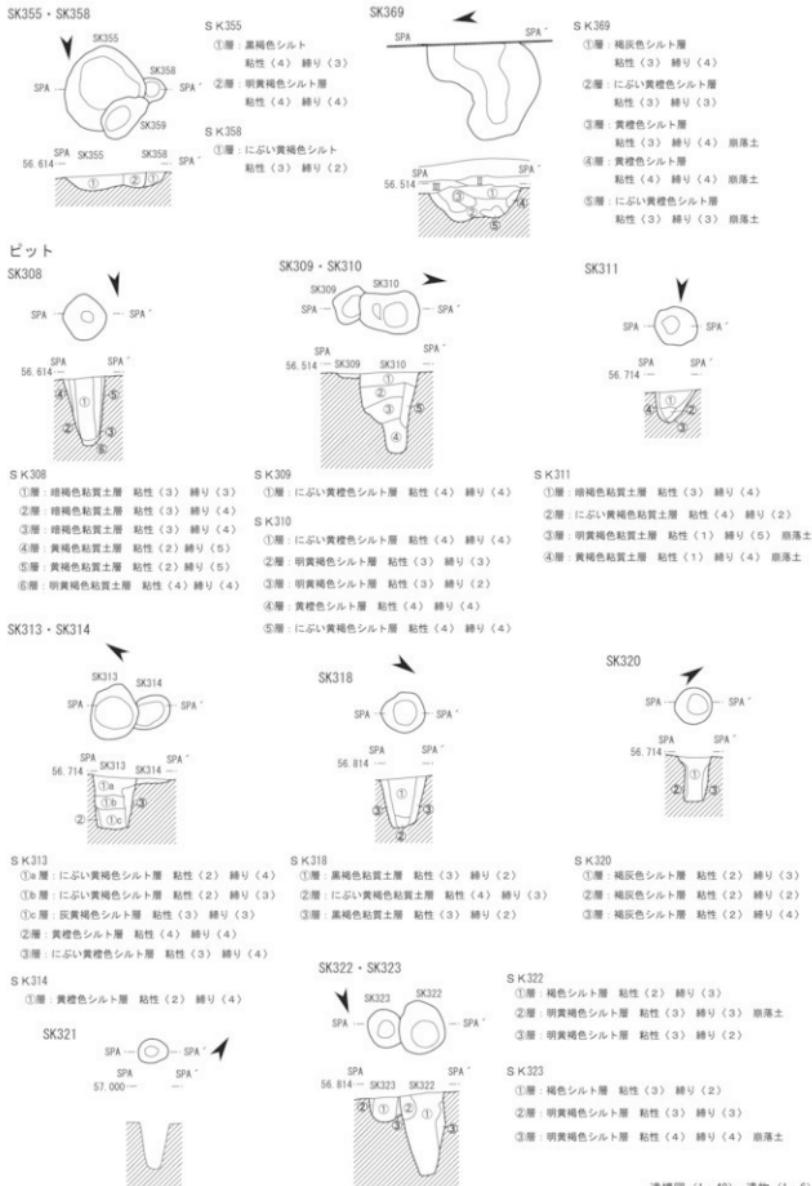
①層：暗褐色粘質土層 粘性（3） 繊り（3）  
径 1～10mm 以下ローム 3%、径 4mm 以下炭化物 1%

②層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（4）  
径 2～20mm 以下ローム 4%、径 5mm 以下炭化物 1%

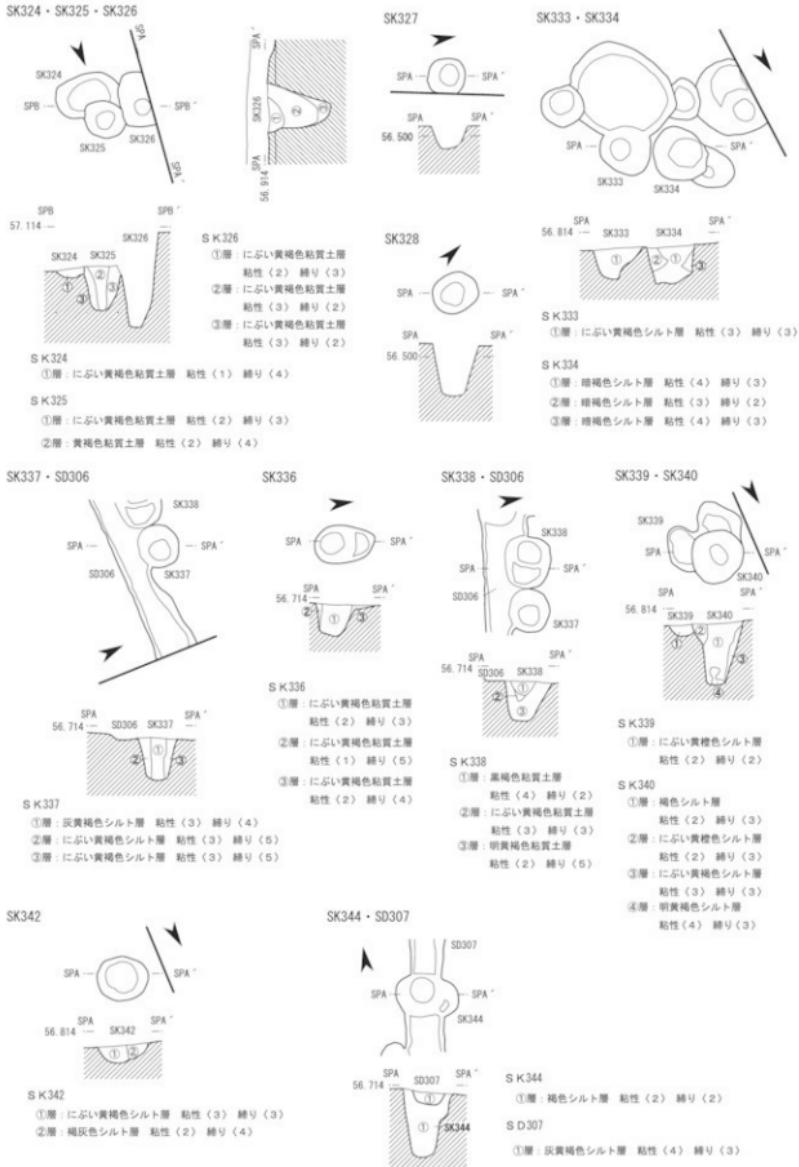
SK395

①層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（1） 繊り（4）  
径 1～30mm 以下ローム 5%、径 5mm 以下炭化物 1%

②層：褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（4） 原落土  
径 5～20mm 以下ローム 4%



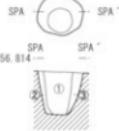
遺構図 (1:40) 遺物 (1:6)



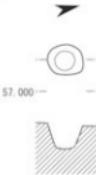
SK346



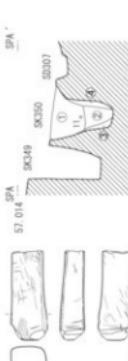
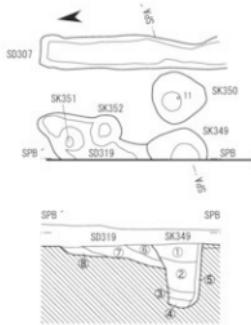
SK347



SK348



SK349 • SK350 • SD307 • SD319



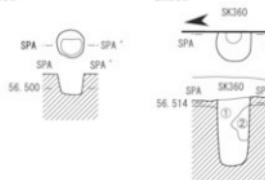
S K349

- ①層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（2）繊り（3）  
 ②層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（1）繊り（4）  
 ③層：にぶい黄橙色粘質土層 粘性（3）繊り（3）

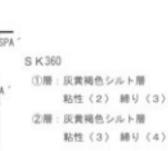
G. K. 250

- ①層：暗褐色粘質土層 粘性（2） 繩り（3）  
②層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（3） 繩り（2）  
③層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（3） 繩り（2）  
④層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（3） 繩り（2）

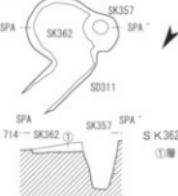
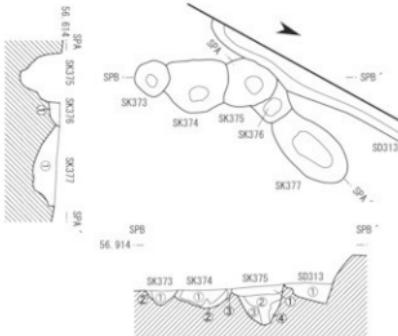
SK3E6



SK360



SK373 : SK374 : SK375 : SK376 : SK377 : SD313



にぶい黄褐色シルト層  
黏性(2) 細粒(4)

SK377

- ①層：灰黄褐色シルト層 粘性（2） 繼り（3）  
②層：明黄褐色シルト層 粘性（3） 繼り（3）

SK374

- ①層：灰黃褐色シルト層 粘性（4） 繕り（4）  
②層：黄橙色シルト層 粘性（3） 繖り（4）

SK375

- ①層：にぶい黄橙色シルト層 粘性（2） 繰り（4）  
 ②層：黒褐色シルト層 粘性（2） 繰り（2）  
 ③層：明黄褐色シルト層 粘性（4） 繰り（4） 崩落土  
 ④層：明黄褐色シルト層 粘性（3） 繰り（3） 崩落土

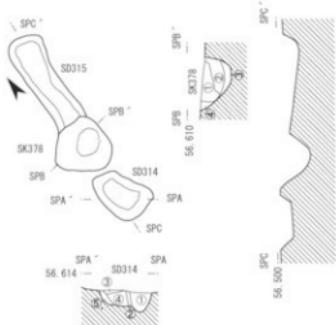
S-D313 ②期・にじいろ視角シルト層 黏性(2) 緩H(5)

S.K.376 ①腰：腰帶褐色，尖端黑色。頭部（2），體部（4）

S.K.377 ①層：に長い葉状角シルト層 黏性（2） 緩H（4）

遺標圖 (1:40) 遺物圖 (1:6)

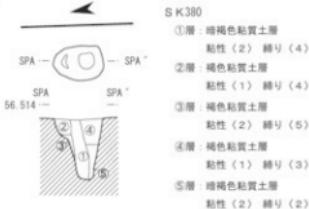
SK378・SD314・SD315



SK378

- ①層：暗褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（3）
- ②層：暗褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（3）
- ③層：にぶい黄褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（4）
- ④層：明黃褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（4）

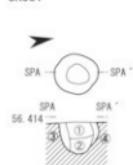
SK380



SK380

- ①層：暗褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（4）
- ②層：褐色粘質土層 粘性（1） 繊り（4）
- ③層：褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（5）
- ④層：褐色粘質土層 粘性（1） 繊り（3）
- ⑤層：暗褐色粘質土層 粘性（2） 繊り（2）

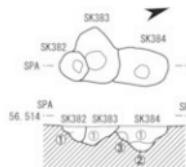
SK381



SK381

- ①層：黒褐色シルト層 粘性（3） 繊り（2）
- ②層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（2）
- ③層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（3）
- ④層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（2） 繊り（2）

SK382・SK383・SK384



SK382

- ①層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）

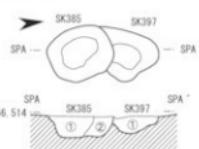
SK383

- ①層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）

SK384

- ①層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）
- ②層：明黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（2）
- ③層：黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（4）

SK385・SK397



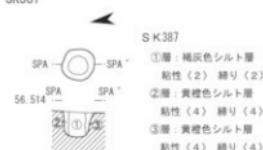
SK385

- ①層：灰黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（3）
- ②層：明黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（3）

SK397

- ①層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）

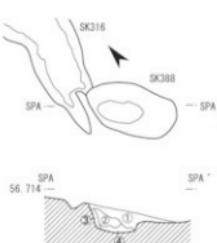
SK387



SK387

- ①層：褐灰色シルト層 粘性（2） 繊り（2）
- ②層：黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）
- ③層：黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4）

SK388



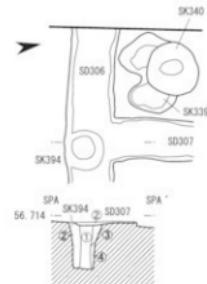
SK388

- ①層：灰黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（5）
- ②層：灰黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（4）
- ③層：明黄褐色シルト層 粘性（4） 繊り（4） 崩落土
- ④層：明黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（3） 崩落土
- ⑤層：灰黄褐色シルト層 粘性（3） 繊り（3）

造構図 (1:40)

溝狀遺構

SD307 • SK394



S K 204

- ①層：灰黃褐色シルト層  
　　粘性〈3〉 繼り〈4〉

②層：明黃褐色シルト層  
　　粘性〈4〉 繼り〈4〉

③層：明黃褐色シルト層  
　　粘性〈4〉 繼り〈4〉

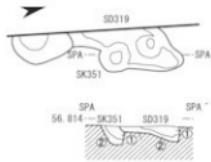
④層：黄褪色シルト層  
　　粘性〈4〉 繼り〈5〉

⑤層：黄褪色シルト層  
　　粘性〈4〉 繼り〈5〉

S D 307

- 2層：灰黃褐色シルト層  
　　粘性（4） 繊り（3）

SD319 • SK351 • SK352



SK35

- ①層：にぶい黄褐色シルト層  
粘性（3） 繊り（4）

②層：明黄褐色シルト層  
粘性（4） 繊り（4）

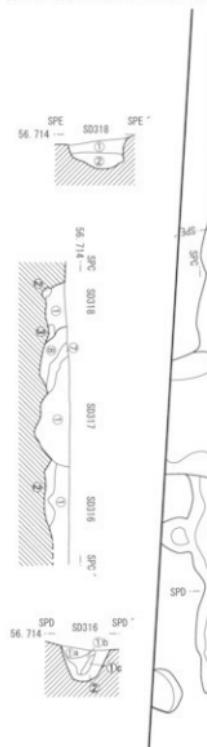
S D31

- ①層：にぶい黄褐色粘質土層  
粘性（2） 繼り（3）

②層：暗褐色粘質土層  
粘性（3） 繼り（3）

③層：にぶい黄褐色粘質土層  
粘性（1） 繼り（5）

SD316 · SD317 · SD318 · SK390 · SK391



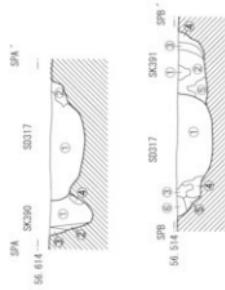
1

S P 318

- ①層：灰黄褐色シルト層 粘性（3）繊り（3）  
②層：にぶい黄橙色シルト層 粘性（2）繊り（2）

20 K 391

- ①層：灰黃褐色シルト層 粘性（3） 繩り（3）
  - ②層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（2） 繩り（2）
  - ③層：にぶい黄褐色シルト層 粘性（2） 繩り（2）
  - ④層：明黄褐色シルト層 粘性（2） 繩り（3） 崩落土
  - ⑤層：褐灰色シルト層 粘性（3） 繩り（3）



SK390

- ①層：黒褐色シルト層 粘性（2） 繊り（2）  
 ②層：褐灰色シルト層 粘性（2） 繊り（2）  
 ③層：黄橙色シルト層 粘性（3） 繊り（3）  
 ④層：黄橙色シルト層 粘性（3） 繊り（3） 延葉土

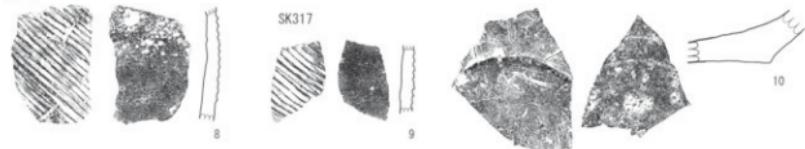
S D317

- ①層：褐灰色シルト層 粘性（3） 繰り（4）
  - ②層：明黄褐色シルト層 粘性（3） 繰り（4） 崩落土
  - ③層：黄褐色シルト層 粘性（3） 繰り（4）
  - ④層：灰黃褐色シルト層 粘性（3） 繰り（2）
  - ⑤層：明黄褐色シルト層 粘性（2） 繰り（4） 崩落土
  - ⑥層：褐灰色シルト層 粘性（3） 繰り（3）
  - ⑦層：黄褐色シルト層 粘性（2） 繰り（2）
  - ⑧層：灰黃褐色シルト層 粘性（2） 繰り（2）

SK301

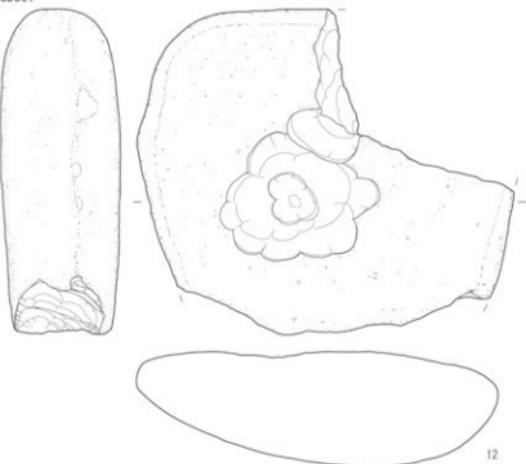


SK306



SD301

SK350



SD302



SD304



1 ~ 6 + 8 ~ 10 + 12 ~ 16 (1 : 3) 7 (2 : 3) 11 (1 : 2)



遺跡全景（西から）



遺跡全景（北から）



調査区完掘状態（北から）



調査区完掘状態（北西から）



調査区完掘状態（西から）



調査区着手前（南から）



表土剥ぎ（北東から）



グリッド杭の打設（南から）



表土剥ぎ完了（南から）



遺構確認作業（南から）



遺構確認状態（南から）



遺構確認状態（北から）



遺構掘削（南から）



遺構掘削（東から）



遺構掘削（南西から）



遺構掘削（南西から）



遺構掘削（北から）



断面図の作成（西から）



測量作業（西から）



対空標識の打設（南から）



空中撮影（西から）



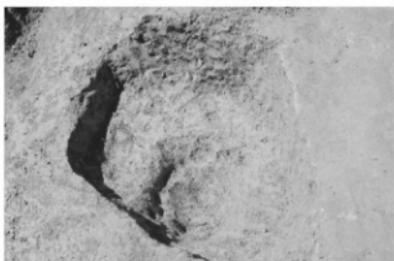
完掘状況（北から）



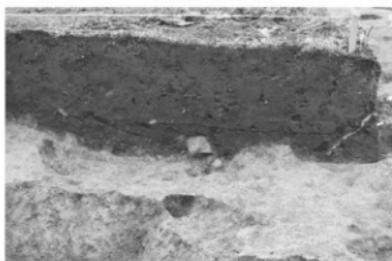
完掘状況（南から）



SK301 完掘状態（東から）



SK302 完掘状態（南から）



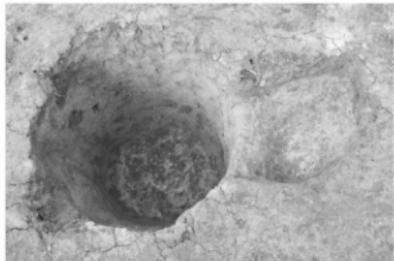
SK305・306 半截状態（南から）



SK308 半截状態（北から）



SK312 完掘状態（東から）



SK313・SK314 完掘状態（西から）



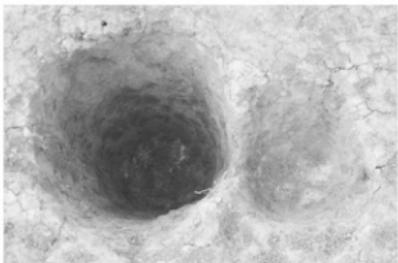
SK317 遺物出土状態（西から）



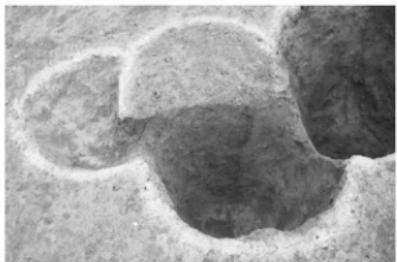
SK317 完掘状態（北西から）



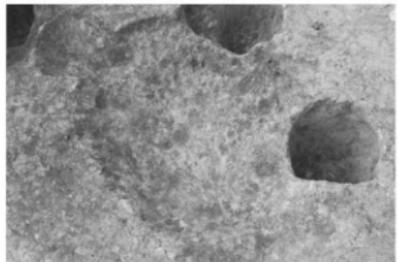
SK 320 半截状態（東から）



SK 322・323 完掘状態（南から）



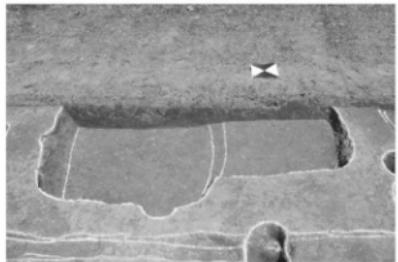
SK 325 半截状態（北から）



SK 330 完掘状態（南から）



SK 339・SK 340 半截状態（北から）



SK 345・SK 395 完掘状態（西から）



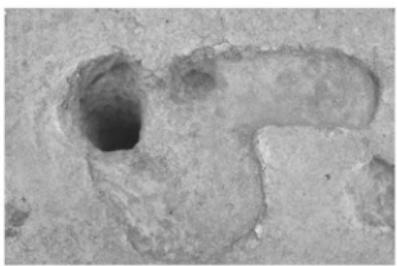
SK 349・SK 319 半截状態（東から）



SK 350 半截状態（南から）



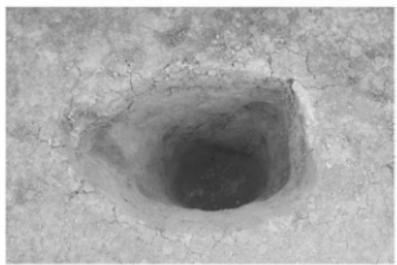
SK 360 完掘状態（西から）



SK 362・SK 357・SD 311 完掘状態（東から）



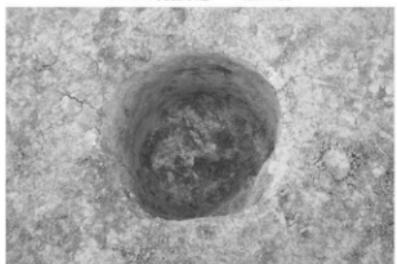
SK 373・SK 374・SK 375 完掘状態（西から）



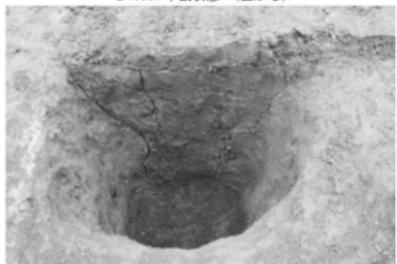
SK 380 完掘状態（西から）



SK 381 半截状態（西から）



SK 387 完掘状態（東から）



SK 394 半截状態（東から）



SK 398 半截状態（北から）



S D 301 遺物出土状態 (東から)



S D 301・S D 302 半截状態 (東から)



S D 304 遺物出土状態 (西から)



S D 301～S D 304 完掘状態 (西から)



S D 307 完掘状態 (南から)



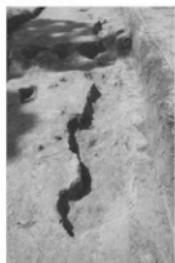
SK 387 完掘状態 (東から)



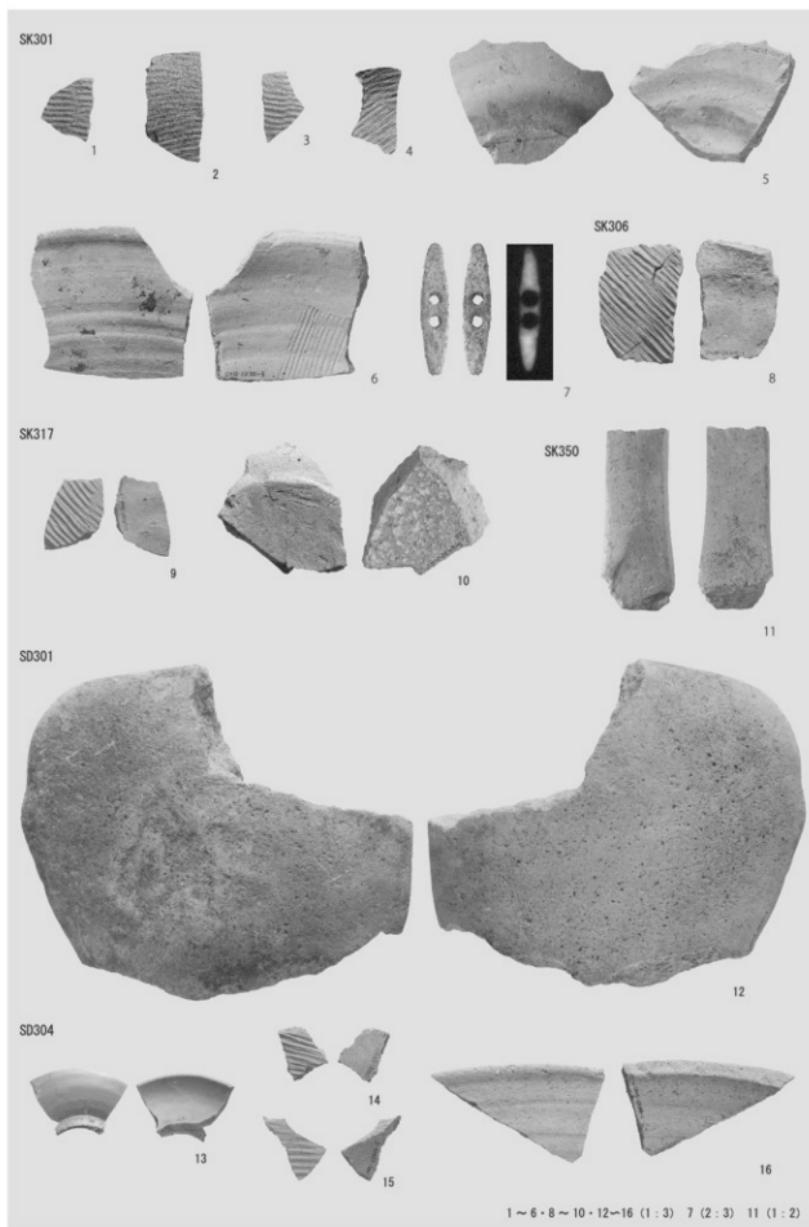
S D 317 完掘状態 (東から)



S D 316 完掘状態 (南から)



S D 318 完掘状態 (北から)





## 報告書抄録

ふりがな	うらはたいせき さん							
書名	浦畠遺跡Ⅲ							
副書名	墓園建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	新田康則							
編集機関	長岡市教育委員会							
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号 TEL0258-32-0546							
発行年月日	2016年2月29日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
浦畠遺跡	新潟県 長岡市 来迎寺字浦畠 901番地2	15021	448	37° 23' 37"	138° 46' 36"	20150601 ～ 20150611	102.9 m <sup>2</sup>	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時期		主な遺構		主な遺物		特記事項
浦畠遺跡	集落跡	中世		土坑・溝		珠洲焼		なし

### 浦畠遺跡Ⅲ

—墓園建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成28(2016)年2月29日 印刷

平成28(2016)年2月29日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社サンワプロセス